

新宿区教育委員会会議録

令和2年第5回臨時会

令和2年7月14日

新宿区教育委員会

令和2年第5回新宿区教育委員会臨時会

日 時 令和2年7月14日(火)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 5時08分

場 所 新宿区役所5階 大会議室

出席者

新宿区教育委員会

教 育 長	酒 井 敏 男	教育長職務代理者	今 野 雅 裕
委 員	古 笛 恵 子	委 員	星 野 洋
委 員	山 下 浩 一 郎	委 員	羽 原 清 雅

説明のため出席した者の職氏名

次 長	村 上 道 明	教育調整課長	齊 藤 正 之
教育指導課長	荒 井 亮 宏	審議委員会委員長	堀 米 孝 尚
審議委員会委員	坂 元 竜 二	審議委員会委員	池 田 知
数学科調査委員会 委員長	伊 藤 裕 一	美術科調査委員会 委員長	岩 永 章
理科調査委員会 委員長	冠 木 健	道徳科調査委員会 委員長	東 孝 夫
音楽科調査委員会 委員長	島 田 一 宣		

書記

教 育 調 整 課 査 平 明 生	教 育 調 整 課 係 国 分 克 行
-------------------	---------------------

議事日程

協 議

- 1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について（教育指導課長）

◎ 開 会

○教育長 ただいまから令和2年新宿区教育委員会第5回臨時会を開会します。

本日の会議には、全員が出席をしておりますので、定足数を満たしております。

本日の会議録の署名者は、古笛委員にお願いいたします。

○古笛委員 了解しました。

◎ 協議1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について

○教育長 本日は、「協議1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について」の協議を行います。

なお、本日は議事はございません。

今回の教科用図書採択では、令和3年度に使用する区立中学校の教科用図書について、新たな学習指導要領が令和3年度から実施されることから、全ての教科の教科用図書について絞り込みを行い、採択を行います。

なお、採択した教科用図書を使用する期間は、令和3年度から令和6年度までの4年間となります。

初めに、今回の教科用図書採択の日程についてお諮りします。

教科用図書は、法令の規定に基づき、本年8月31日までに採択を行い、東京都に報告する必要があります。

具体的な採択の日程といたしましては、第4回定例会で御報告をさせていただきましたとおり、本日、7月14日のほか、7月17日及び7月22日の会議で協議・審議を進め、各教科の採択候補図書を1種に絞り込んでいきたいと考えています。そして、協議の結果を踏まえ、絞り込み理由の確認など、議案を整え、8月7日の第8回定例会で御審議いただき、採択を行いたいと考えています。

なお、各臨時会における協議で1種に絞り込めなかった種目がある場合は、7月27日または7月29日に、改めて御審議いただきたいと思っております。

以上が採択の日程の提案となりますが、御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

○今野教育長職務代理者 ただいま、教育長から御提案のありました日程でよろしいかと思

ます。

○**教育長** ありがとうございます。

今野教育長職務代理者から御発言をいただきましたが、ほかに御意見、御質問はありますでしょうか。

御意見、御質問がなければ、提案いたしました日程で進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○**教育長** ありがとうございます。

それでは、本年度の日程については、そのように進めさせていただきます。

次に、協議の進め方についてお諮りします。

本日は、まず教育委員会会議規則第13条の規定に基づき、令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書審議会委員会委員長及び同委員会委員に出席を要請し、審議会委員会からの報告を受け、調査報告に関する総括的な質疑を行います。

次に、教科用図書を専門的に調査した各教科の調査委員会委員長に出席を要請し、指導要領や教科特性などの説明を受け、教科用図書の調査検討の結果について質疑を行います。

最後に、審議会委員会の調査結果について、審議会委員会委員から説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

以上が本日の協議の進め方の御提案となりますが、いかがでしょうか。

○**今野教育長職務代理者** ただいま、教育長から御提案のありました進め方でよろしいかと思
います。

○**教育長** ありがとうございます。

今野教育長職務代理者から御発言をいただきましたが、ほかに御意見、御質問はあります
でしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** 御意見、御質問がなければ、提案のとおり進めさせていただきたいと思いますが、
よろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○**教育長** ありがとうございます。

続いて、協議を行う種目の日程を確認させていただきます。

本日、7月14日に数学、美術、理科、道徳、音楽（一般）、音楽（器楽合奏）を、7月17

日に保健体育、国語、書写、技術・家庭（技術分野）、技術・家庭（家庭分野）を、7月22日に社会（地理的分野）、社会（歴史的分野）、社会（公民的分野）、地図、英語の協議を行うということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 ありがとうございます。

以上で、採択までの手順と当面の日程を確認いたしました。

会議の進め方の詳細につきましては、今後協議していく中で、必要に応じて皆様と決めていきたいと思っております。

そのほか、関連で事務局から何かありますでしょうか。

○教育調整課長 教育委員会に寄せられました教科用図書採択に係る要望書等、また教科書展示会で行ったアンケートの回答を各委員にお配りしております。

教科用図書採択に係る要望書等につきましては、1団体から1件の要望書等をいただいております。

また、教科書展示会につきましては、5月29日から6月11日まで特別展示を実施し、6月12日から6月25日まで法定展示を実施いたしました。教科書展示会会場でのアンケートの回答総数は33件となっております。

事務局からは以上でございます。

○教育長 ありがとうございます。

要望書及びアンケートの回答につきましては、教育委員の皆様にも事前にお配りし、御覧いただいております。

なお、教科書採択は、教育委員会の判断と責任において、公正かつ適正に行う必要がありますので、採択結果をもって、いただいた御要望等へのお答えとさせていただきます。

それでは、中学校教科用図書審議委員会委員長及び委員に御入室をいただきたいと思います。

〔審議委員会委員長及び委員入室〕

○教育長 それでは、具体的な協議に入る前に、当教育委員会は5月11日に、審議委員会に対し、採択の対象となる教科用図書について調査検討を行い、その結果について報告するようお願いをしたところです。

本日は、審議委員会を代表しまして、堀米委員長から、その報告を受け、説明を受けることで進めます。

それでは、報告をお受けしたいと思います。

○堀米教科用図書審議委員会委員長 報告。

本委員会は令和2年5月11日、貴教育委員会から審議依頼を受け、令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択に際し、採択の対象となる全ての教科用図書について、調査・審議を行いました。その結果を別紙のとおりまとめましたので、ここに報告いたします。

令和2年7月14日。

新宿区教育委員会教育長、酒井敏男様。

教科用図書審議委員会委員長、堀米孝尚。

〔教科用図書審議委員会報告書授受〕

○教育長 ありがとうございます。

報告を確かに受け取りました。教科用図書について綿密に調査していただき、詳細な検討結果をいただき、ありがとうございます。当教育委員会は、審議委員会の審議結果を基に、生徒の実情及び学校の意向に十分配慮して、公正かつ適正な採択を行います。

なお、ただいま拝受いたしました報告につきましては、委員の皆様のお手元に、写しを配付させていただいています。

それでは、「協議1 令和3年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について」、審議委員会委員長から、総括的な検討経過、検討の視点、審議結果について御説明いただき、それについて質疑を行います。

それでは、御説明をお願いいたします。

○堀米教科用図書審議委員会委員長 最初に、審議委員会における審議日程について申し上げます。

5月11日、第1回の審議委員会におきまして、教育長より審議依頼を受けました。審議日程、審議委員の役割を確認いたしました。12名が、ここで審議委員として指名を受けました。

第2回の審議委員会は、6月22日に行いました。学校調査結果及び調査委員会調査結果を基に、数学、美術、理科、道徳、音楽（一般）、音楽（器楽合奏）、英語、国語、書写、保健体育について検討を行いました。道徳については、さらに十分な協議が必要と考え、第3回の審議委員会でも協議しました。

第3回の審議委員会は、7月6日に行われました。同じく学校調査結果及び調査委員会調査結果を基に、道徳、社会（地理）、社会（歴史）、社会（公民）、地図、技術・家庭（技術分野）、技術・家庭（家庭分野）について検討を行いました。

第4回審議委員会は、7月10日に行われました。同じく学校調査結果及び調査委員会調査結果を基に、改めて全教科について検討を行いました。また、報告分、審議委員会調査資料の文言の最終検討もここで行いました。

以上のように、4回の審議委員会を経て審議を行ってまいりました。

次に、採択候補の総点数について申し上げます。

国語4種、書写4種、社会（地理）4種、社会（歴史）7種、社会（公民）6種、地図2種、数学7種、理科5種、音楽（一般）2種、音楽（器楽合奏）2種、美術3種、技術・家庭（技術分野）3種、技術・家庭（家庭分野）3種、保健体育4種、英語6種、道徳7種の計10教科、16種、145冊の検討を行いました。

次に、審議委員会における審議の方針を申し上げます。

学校調査と調査委員会調査の結果を踏まえながら、審議委員会として独自の評価を行いました。審議の結果、場合によっては調査委員会調査結果と評価が異なる場合があります。具体的に、道徳に関しましては、調査委員会結果と審議委員会結果が出した結果が異なっております。

審議委員会では、評価に際し、優れている点を分析いたしました。具体的に審議委員として参加している委員の学校現場での事例や、PTAの方からの意見を踏まえ、内容や使用上の便宜等について審議に当たりました。

審議委員として、独自の意見をそれぞれの方々からいただき、それらを参考に評価をいたしました。学校調査結果でAが多く、調査委員会結果がAならば、Aを基本としているところですが、学校、調査委員会ともに評価が高く、甲乙つけ難い場合には、Aを2者以上つけている教科もございます。ただし、そのような場合において、どちらがよりすぐれているか審議しています。

次に、審議委員会報告書の見方ですが、国語から英語まで、種目ごとに1ページにまとめられています。意見欄には、審議委員の意見を基に、調査委員会の総合的な意見を加味して作成しました。意見欄については、評価がCよりもB、BよりもAの記述が多くなっております。それだけ優れている点があるということで、記載が多くされているということです。

では、それぞれの教科について補足説明をさせていただきます。

まず、数学からです。数学。調査委員会調査の結果では、A評価は東書と学図の2者でありました。学校調査の結果については、東書をA評価とした学校が6、学図は5でした。これを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、東書、学図ともに基礎的な事項が押さえら

れ、主体的・対話的で深い学びを行うための手だてがありましたが、東書のほうが問題量や教科書本文の分量が精選され、習熟度の低い生徒にも対応した授業展開が期待できることや、教科書全体の余白やバランスがよいことなどの理由から、学図よりも優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは2者であります。審議委員会において推薦するのは東書となりました。

美術。調査委員会の調査の結果では、A評価は光村1者のみでした。学校調査の結果では、光村をA評価とした学校が7でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、光村は掲載されている作品の種類が豊富であることや、紙面構成は生徒が見通しを立てやすく、教師の指導において主体的に学びへ導く上で指導がしやすい等の理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは光村1者でした。

理科。調査委員会調査の結果では、A評価は東書と大日本の2者でありました。また、学校調査の結果では、東書をA評価とした学校は6、大日本が4でした。また、啓林館をA評価とした学校は5でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、東書は全編を通して重要語句や実験、観察への解釈や既習事項への連携部分において波線を引いており、生徒や教師が科学的な視点や考え方に様々な視点で結びつることができる点や、理科において必要な分析、解釈、予想、まとめ、発表などバランスよく配置されていること。また、それらを写真やイラスト等で生徒に分かりやすく配置されている等の理由から、大日本や啓林よりも優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは東書と大日本の2者ではあります。審議委員会において推薦するのは東書となりました。

道徳。調査委員会調査の結果では、A評価は教出と学研の2者でありました。また、学校調査の結果では、教出をA評価とした学校は2、学研は2です。日文は7校、A評価をつけています。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、日文は現在学校現場で使用しており、道徳ノートについては一定の評価を受けています。より一層、特別の教科 道徳において評価、つまり生徒一人一人の道徳性に係る成長を見取る指導技術を各校で上げている状況であり、その中で、現在、道徳ノートを用いて記録や振り返りのしやすさが聞かれ、学校現場からも高い評価を受けていることや、各題材のバランスのよさなどの点から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは3者ではあります。審議委員会で推薦するのは日文となりました。

音楽（一般）。調査委員会調査の結果では、A評価は教芸1者のみでした。また、学校調査の結果では、教芸をA評価とした学校は6でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり

検討した結果、教芸は生徒がなじみ深い音楽から、直接触れる機会の少ない芸能まで幅広く取り扱われており、歌唱教材の作曲者からのコメントなど、歌詞内容の理解がしやすい等の理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは教芸1者でした。

音楽（器楽合奏）。調査委員会調査の結果では、A評価は教芸1者のみでした。また、学校調査の結果では、教芸をA評価とした学校は10でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、教芸は世界・日本の楽器について詳細に紹介され、一般の教科書の鑑賞教材を演奏したり、両分野を関連づけて指導を行うことで、さらに深い学びが期待できる等の理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは教芸1者でした。

保健体育。調査委員会調査の結果では、学研がA評価でした。学校調査の結果では、A評価は学研が5校でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、学研は紙面構成において、本文と資料が他者と比較し、より生徒の視点に立って作成されており、各ページに設定されている見方・考え方のヒントが、より一層深い学びへと、効果的に授業を進めていく上で有効である。LGBTやがん教育等の題材について、記述が他者と比較しても分かりやすく、生徒に課題意識を持たせることができる記述であるなどの理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは学研1者でした。

国語。調査委員会調査の結果では、光村がA評価でした。学校調査の結果では、A評価は光村が9校でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、光村は新旧幅広く名作題材を使っていることや、生徒の思考を意識したつくりとなっており、自身の考えの整理や話合いのまとめなど、幅広く活用が期待できる等の理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは光村1者でした。

書写。調査委員会調査の結果では、A評価は光村1者のみでした。また、学校調査の結果では、光村をA評価とした学校は7でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、内容、構成ともにバランスが取れ、別冊の書写ブックを活用することで、より多くの練習に取り組むことができることや、日常に生かす題材が多い等の理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは光村1者でした。

技術・家庭（技術分野）。調査委員会調査の結果では、A評価は開隆堂1者のみでした。また、学校調査の結果では、東書は3、教図が4、開隆堂は2でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、実習例の記述が、具体的かつ目的が分かりやすく、より題材一つ一つが他者との比較した際に、生活や社会を支える技術に関するページに重きが置かれている等の理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは開隆

堂1者でした。

技術・家庭（家庭分野）。調査委員会調査の結果では、A評価は教図1者のみでした。また、学校調査の結果では、東書は4、教図が4、開隆堂は3でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、教図は安全、衛生面に力を入れており、さらに調理に関する事項が他者と比較し多いことや、その手順が明確に示されている等の理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは教図1者でした。

社会（地理的分野）。調査委員会調査の結果では、A評価は東書と帝国の2者でありました。学校調査の結果では、東書のA評価は5、帝国は9でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、帝国は東書よりも写真や図版のサイズや量が適量であり、また学習を深めやすい図版が多く、イラストも豊富であることや、生徒の興味・関心を引きつける工夫が随所に施されていることで、視覚的な理解がしやすい等の理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは2者ではありますが、審議委員会で推薦するのは帝国となりました。

社会（歴史的分野）。調査委員会調査の結果では、A評価は東書と帝国の2者でありました。学校調査の結果では、東書のA評価は6、帝国は5でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、東書は対話的な学びになるよう仕掛けがあり、各ページのまとめに向かう構成がよく、帝国と比較した際に記述の多さや詳細さがよい等の理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは2者ではありますが、審議委員会で推薦するのは東書となりました。

社会（公民的分野）。調査委員会調査の結果では、A評価は東書と帝国の2者でありました。学校調査の結果では、東書のA評価が7、帝国は6でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、東書は地理的分野や歴史的分野の学習内容と関連させやすい記述や資料が多く、他者と比較した際にも備考欄や資料についての説明や、補足等の記述量が多いことは、深く学習内容を理解する上で有効である等の理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは2者ではありますが、審議委員会で推薦するのは東書となりました。

地図。調査委員会調査の結果では、A評価は東書と帝国の2者でありました。学校調査の結果では、東書のA評価は2、帝国は8でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、帝国はサイズが大きく、ビジュアルとしても見応えのある内容であることや、東書と比較した際に詳細な資料が多い等の理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員

会でA評価としたのは2者であります。審議委員会で推薦するのは帝国となりました。

英語。調査委員会調査の結果では、A評価は東書1者のみでした。また、学校調査の結果では、東書はA評価が9でした。これらを踏まえ、直接教科書に当たり検討した結果、全学年を通して幅広い題材を扱い、QRコードの使用感のよさや、話すこと、聞くことに、他者と比較した際にも力を入れており、英語の習熟の高い生徒が多い本区の中で、発展的な内容を多く取り扱っている等の理由から、優れている点が多いと判断し、審議委員会でA評価としたのは東書1者でした。

以上でございます。

○**教育長** ありがとうございます。説明が終わりました。

本年度の検討経過のうち、総括的な部分について御意見、御質問がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** よろしいでしょうか。総括的な点についてでございます。もしもないようであれば、ここで審議委員会委員長には御退席をいただきたいと思えます。

ありがとうございました。

○**堀米教科用図書審議委員会委員長** ありがとうございます。

[審議委員会委員長退席]

○**教育長** それでは、次に中学校教科用図書調査委員会の各教科調査委員長に御入室をお願いいたします。

[各教科調査委員会委員長入室]

○**教育長** それでは、協議の進め方ですが、専門的に調査検討を行った調査委員会からの各教科委員長から、種目ごとに「指導要領の中での目標」、「教科の特性等」、「調査委員会における調査の内容」、「その他評価を決定する上での主な議論」などについて説明を受け、質疑を行います。

その後、審議委員会委員から、種目ごとに審議委員会における審議の内容等について説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

それでは、数学について、指導要領の中での目標や、評価を決定する上での主な議論について御説明ください。

○**数学科調査委員会委員長** それでは、説明させていただきます。

数学科調査委員長を務めました牛込第三中学校長、伊藤裕一です。よろしくお願いいたします。

ます。

○教育長 よろしくお願ひいたします。

○数学科調査委員会委員長 令和3年度より中学校で全面実施となる今回の学習指導要領の改訂においては、学校教育法に示されている学力の3要素、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度を改めて、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力、人間性等の涵養の3つの柱で再整理されました。

このことを踏まえ、数学科の目標は、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成すると設定され、先ほど述べた3つの柱に沿って、

1つ目として、数量や図形などについての基礎的概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。

2つ目。数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

3つ目。数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う、と具体的に示されました。

これを達成するための数学科の学習指導内容につきましては、現在の4領域、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」に変化はありませんが、データの活用では、高校で扱っていた四分位範囲、箱ひげ図が入りました。日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、その処理、表現を通して統合的・発展的に考察し、問題解決につなげていくことを狙いとしています。

数学科調査委員会では、このような改訂の狙いを踏まえ、作成された7者の教科用図書について調査を行いました。

大前提として、どの教科も文部科学省の検定を通っているものであり、基本的には不適なものはありません。その上で、各者の特徴を把握し、新宿区に適したものを選定していきましました。また、どの教科書も現在の情報化に対応し、QRコードやデジタルコンテンツ等、情報機器を活用できるつくりになっています。

それでは、各者、A評価から順にお伝えしていきたいと思ひます。

A評価は、2者あります。最初に、東京書籍です。

全体として、基本的なことが簡潔に分かりやすく丁寧にまとめられています。「例題→たしかめ→問」の順で、段階的に難易度を上げており、まだ十分な理解が得られていない数学が苦手な生徒も、学習しやすいシンプルな構成になっています。

一方、「深い学び」のページや章の問題Bに「活用の問題」が入るなど、活用や記述式の問題も適切に入っており、数学的な思考を伸ばすこともできる構成です。

また、「例」に応じた課題が質・量とも適切であることなど、全体のバランスがよく、どの段階の生徒にとっても使いやすい教科書であると考えます。

もう一つ、A評価をつけたのは学校図書です。

全体として、イラストや写真が多く、生徒の興味・関心を高める丁寧なつくりになっています。章末の問題構成が、「基本」「応用」「活用」と段階ごとに構成されており、分量も豊富です。基本事項の押さえ方と活用のバランスが取れている教科書だと感じています。

次は、B評価とした4者です。

最初に、教育出版です。全体を通して、例題から課題解決、その活用が身につく構成になっています。また、章の前に復習のページ、それから2ページにわたって導入、「Let's Try」という導入があったり、章末の「学習のまとめ」がしっかりしていたりなど、全体の構成として非常に丁寧さを感じました。

続いて、啓林館です。全体として、導入や例に身近なものが多く、練習問題の質・量ともに十分であり、教科書を中心とした授業で、十分に学習内容の定着を図ることができる構成になっています。全学年、巻末ですが、「学びをいかそう」「レポート例」など、多彩で深い学びにつながる内容が豊富に含まれています。

3者目が、大日本図書です。学校行事や社会的関心事（オリンピック・パラリンピック等）との関連した導入題材やトピックスなどが多彩で、数学と実生活の関連を意識したつくりになっていると感じています。数学的に結びつけやすい特徴があります。また、「数学の世界へようこそ」と題し、全学年各所で、問題を見出す、解決方法の探求をする、解決、それを深化させるの4段構成で数学的活動を展開しており、単元の学習を広げたり深めたりすることができるようになっています。

もう1者は、日本文教出版です。章の前の確認問題や節ごとの基本の問題、巻末の復習問題の中に小学校の分数計算の説明があったりと、基本を重視した丁寧な構成・内容になっています。問題解決のプロセスが丁寧であり、ページ右側にある「大切な見方・考え方」など

の表記、記載など、学習を深め、ポイントを押さえやすいつくりになっています。

最後に、C評価としました数研出版です。巻末の練習問題は、基礎から発展まで幅広く対応しており、習熟度に応じた取組をすることができる構成になっています。数学的な見方や考え方を高める教材、「探究ノート」が別冊についており、学習内容の深化に活用できる、そういう構成が特徴です。

また、全体を通して、先ほど述べましたが、現在の教科書と大きく変化しているのが、QRコードやデジタルコンテンツ、各者、取り組んでいるということです。A評価をつけました東京書籍では、「Dマーク」によって、また学校図書やQRコードを示して、インターネットコンテンツとの結びつきを強化し、インターネットでの予習・復習も可能な状況です。また、B評価をつけた大日本図書でも、ウェブコンテンツが充実しており、非常に発展的な例題も載っている状況です。

調査委員会としては、どの教科書もそれぞれの特徴、工夫とよさを感じました。その中で、教科を教える立場として、授業でどのように使用し、定着、発展させていくかと具体的なイメージを共有しながら意見交換をし、検討を進めました。

最終的には、各学校から提出された報告書と調査委員会で検討した結果を合わせ、これまでの説明どおり評価をいたしました。A評価が2つありましたが、総合評価として、バランスがよく、どの段階の生徒にとっても使いやすい教科書という視点で、東京書籍を推薦いたします。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。いかがでしょうか。

○山下委員 1つ質問させてください。

小学校から中学校に上がるときに、その導入の部分で使いやすいなと思ったのは、やはり東書だったのでしょうか。

○数学科調査委員会委員長 どの教科書もいろいろな工夫をされています。そこに厚めに手当ていいでしょうか、記載をしているものあるのですが、トータルとして東書という結論です。

○山下委員 わかりました。

○教育長 他に御意見、御質問がなければ、次に美術について、評価を決定する上での主な議論について、御説明をお願いいたします。

○美術科調査委員会委員長 美術科調査委員長を担当いたしました落合中学校長、岩永章です。

私からは、美術科教科用図書の調査について報告させていただきます。

まず、教科の目標についてでございます。

学習指導要領では、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指すと示されています。

ここに図表を持ってまいりました。上のほうが、その図表となっております。

具体的には、目標が3つの柱にまとめられております。知識・技能の視点では、作品を色や形、材料や光など、様々な視点から理解し、自分らしい表現方法を工夫し、創造的に表すことができる。

思考・判断・表現の視点では、作品の美しさ、表現の意図や工夫、美術の働きなどについて考え、自分の作品の主題を生み出したり、見方や考え方を深めたりすることができる。

学びに向かう人間性の視点では、作品をつくり出す喜びを味わい、美術を愛する心情、感性、情操を養う、と示されています。

この目標が、発達段階に応じて1学年と2・3学年というくりに分けられ、1学年では基礎的な目標が示され、2・3学年では、それをより深化させた目標となっております。

このことを具体的な例を挙げて御説明させていただきます。

例えば、樹木という題材を3年間通して指導するとした場合、1年生では木のある美しい風景など具体的な視点を示し、2年生では奥行きのある風景として、遠近法などに着目させた表現を求めるといように発展させ、3年生では残したい新宿の風景とし、樹木に差し込む木漏れ日を表現させ、自分が発見した美しい風景を周りの人に知らせるなど、社会とのつながりまで深めるといように、発展的に造形的な見方や考え方を育てていきます。

ただいま御説明した内容を達成するための学習内容は、「A表現」、つまり作品づくりと、Bの鑑賞の2つの領域に分けられています。「A表現」では、作品づくりを通して自分なりのテーマを設定し、発想力や構想力を育てるとともに、表現する技能も磨いていきます。

「B鑑賞」では、美術作品と美術の働きや美術文化という2つの内容が示されています。美術作品の鑑賞では、思考力・判断力・表現力を育てることを目指します。美術の働きや美術文化の鑑賞では、デザインや工芸の機能や目的に着目させ、生活を美しく豊かにする美術の働きや、文化との結びつきなどについて考えさせることを目指しています。

また、表現と鑑賞を関連性をもって指導することで、感性や造形感覚などを高めることを重視しています。

以上が、新学習指導要領に示された美術科の内容となっております。

続いて、実際の美術の授業と、授業で教科書がどのように扱われているかを御説明させていただきます。

授業時数ですが、1年生が週1.3時間、年間45時間、2・3年生が週1時間、年間35時間となっております。1コマ50分の標準的な授業の流れですが、初めの5分で生徒の状況を把握したり、その授業の狙いや内容を説明したりします。

続いて、次の10分ほどを使いまして、教科書を参考に生徒が構想や作業内容を練る。そして、作品づくりの準備を進めるということになります。そして、実際、作業に入っていきます。最後、5分ほどを使いまして、片づけ、まとめ、振り返りを行うこととなります。生徒が作品の制作に当てられる時間は、正味30分から35分ということになります。

標準的な授業の流れから分かるように、限られた時間内での学習になります。そのため、教科書を効果的に活用して、生徒は教科書から作品づくりのヒントや、鑑賞の学習を進めていきます。こうした観点から、美術科の教員は生徒の作品づくりや鑑賞に役立つような情報が得られる教科書を活用したいという共通の願いを持っています。各者の教科書の調査を進めるときには、実際に授業で活用する場面を想定して調査を行いました。

続きまして、各者の教科書の特徴を申し上げます。

調査の結果、各者共通していたこととして、どの教科書も図版が鮮明で美しく迫力がある。見開きページで掲載する。掲載ページの紙質を変えるなど、作品に応じた掲載方法を採用している。どの教科書もQRコードが掲載されている、などが挙げられます。

各者の違いは、まず教科書のサイズ、そして2分冊か3分冊かという構成の違いがありました。掲載図版の種類や編集の内容の違いなども見られました。

各者の教科書の特徴を簡潔に申し上げます。

光村図書の教科書は、1年生用と2・3年生用の2分冊になっております。サイズは、A4判のサイズで、生徒が机の上で扱いやすい大きさとなっております。

内容面では、例えば1年生の教科書の42ページを御覧いただけますでしょうか。

42ページには、「みんなの工夫」というコーナーで、生徒の発想から制作過程まで分かりやすく示され、生徒が大変使いやすいという特徴がありました。

また、同じく1年生の18ページの記載では、養護学級の生徒の作品が掲載され、障害者理解につながるという特徴もありました。

戻っていただきまして、1年生、教科書の10ページ、御覧ください。

レイアウトに工夫があり、鑑賞で比較したり深めたりすることができるような編集となっております。

同じく36ページを御覧いただきますと、QRコードが掲載してありまして、こちらのQRコードでは音声ガイドが聞けるページとなっております。美術館の雰囲気を感じながら、鑑賞できるなどの工夫がなされていました。

以上のような特徴があり、総合評価はAという結果となりました。

続いて、日本文教出版の教科書でございます。

サイズがA4判の横広のサイズとなっております。学年ごとの3分冊構成となっております。

内容面では、1年生の教科書の8ページ、9ページなどに掲載されているように、3年間を通して学習するという学年ごとの道筋が分かりやすくなっております。また、3分冊のために、生徒が持ち運びやすい重量となっております。

別な観点から、1年生の教科書の2ページから4ページを御覧ください。

図版の画質がよく、写真集的な扱いもできるような構成となっております。また、随所にちりばめられておりますQRコードを読み取りますと、アクセスできるコンテンツの一覧が示され、使いやすい構成になっています。

以上のような特徴を総合的に評価しまして、総合評価はBという結果になりました。

続いて、開隆堂の教科書について御説明申し上げます。

開隆堂もA4判の横広サイズでございます。2分冊構成となっております。そのため、2・3年生の教科書はやや重く感じられるところもございました。

内容面について御説明させていただきます。

同じく、1年生の8ページから9ページを御覧ください。

そこには、学習のポイントや美術の用語の掲載記事がありまして、こちらを活用することで、生徒の主体的な学びにつなげることができるという特徴がございます。

同じく、1年生の10ページを御覧ください。

こちらには、他の教科とのつながりが示されておりまして、他教科との関連を意識しながら指導することができるという特徴がございます。

また、随所にありますQRコードを読み取りますと、所蔵美術館のサイトにアクセスできるという工夫がなされているという特徴がございました。

総合評価はBという結果になりました。

その他、評価項目ごとの特徴は報告書に記載してございますので、御覧ください。

以上、美術科教科用図書の調査報告とさせていただきます。

○**教育長** ありがとうございます。説明が終わりました。

美術について御質問等ございましたら、お願いいたします。

よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○**教育長** 他に御意見、御質問がなければ、次に理科について評価を決定する上での主な議論について、御説明をお願いいたします。

○**理科調査委員会委員長** 理科調査委員会委員長をいたしました西早稲田中学校の冠木でございます。

今回、5者の教科書について調査研究を行いました。

まず、学習指導要領では、理科の見方・考え方を働かせようとか、見通しをもって観察、実験を行おうとか、探求に必要な資質・能力を育てようとか、そういったところで目標が設定されておりまして、簡単に申し上げますと、特に理科では、特に物理と言われるエネルギーの領域を中心として、量的な見方、量的な捉え方、それから科学と言われる領域におきましては、質的な捉え方、見方。それから、生命の部分では、共通性や多様性を見方、捉え方。それから天体や火山といった地学の領域では、時間的、あるいは空間的な見方を子どもたちに育成していこうという内容になってございます。

そのことによって比較したり、関連づけをしたり、条件を変えたり、いろいろな視点で考えられるようにする。そうした視点で理科の見方や考え方を育てていこうといったところが大きな目標でございます。

そういった育成をしていくことで、将来、科学的と言われる議論、例えば実証性であったり、再現性であったり、客観性であったり、そういった議論ができるようになってくるように、義務教育段階でその素養を育てていこうではないか、というところが、今回の学習指導要領の改訂の内容であると認識しております。

今回、調査しました5つの教科書は、いずれもそういった考え方によって編集されておりますので、検定を通過してこられたのかなというふうに思っております。

まず、簡単に各教科書の特徴について、発行者の順に御説明いたします。

まず2番の東京書籍ですが、小学校時代や、あるいは下の学年、あるいは日常生活等で培ったこれまでの学びについて、「つながる科学」というようなカテゴリーで説明をすると

もに、それが将来的にどういうふうにつながっていくのかというようなことを紹介して、科学の有用性を伝えようとしている教科書でございます。

また、随所にコンテンツが示されて、動画やシミュレーションができるようになってございます。課題発見から観察・実験と、探求の流れもしっかりしております。

後ほど御説明いたしますが、結果からまとめのところ、東京書籍はこれまでもそうですが、子どもたちに投げかけていく手法を取っておられますので、ここが少し評価が分かれるところかなと思っております。大単元の初めに何を学ぶかが示されるなど、今回の学習指導要領において理科が求められるところについて、非常に気を遣いながら編集されているのかなという印象でございます。

次に、4番の大日本図書でございます。

これまでの学びについては「思い出そう」、これからの学びについては「やってみよう」や「発展」などとして扱っております。これも探求の過程もしっかりしております。また「科学のあしあと」というコーナーでは、これまでの先人の科学の歴史等々について紹介をされております。そういったところで、しっかりと編集されているのかなという印象を持ってございます。それぞれの単元について、学習の進め方を生徒に意識しやすいつくりといえます。

また、大単元の初めには、これまでに学習したこと、それからこれから学習することは、これは見開きにわたってしっかりと書かれていますので、大単元への導入のしやすさが伝わってくる教科書でございます。

探求の過程においては、着眼点が示され、観察・実験の後には結果例があり、「結果から考えよう」と深まってまいります。QRコンテンツも、各学年、20本前後、紹介をされております。暮らしの中の理科は、非常に興味深い内容が多く、多様な授業が期待できると思われれます。

次に、11番の学校図書でございます。

学校図書は、探求の過程については、仮説から実験・考察とオーソドックスな流れを取っております。章の初めに大テーマが設定されており、学習の進め方のイメージが作りやすくなってございます。この教科書の特徴としまして、文字量を多少少なめにして、写真や図による学びへのアプローチ、こういったところを意識している教科書と思っております。QRコードについても利用されておまして、基礎問題、操作方法などの確認がございます。巻末に個人用のホワイトボードのページを設定するなど、学習指導要領に示されている共同

的な学びの意識づけもごさいます。

次に、17番、教育出版です。

教育出版には、「ハローサイエンス」というコーナーがごさいます。かなり多様な内容を、生活に関する知識であったり、科学者の生涯であったり、最新の科学などの情報を紹介して、生徒の関心を高めようとしています。単元の初めには、小学校段階の既習事項との関係を分かりやすくまとめたりすることによって、生徒が見通しを持ちやすくしています。探求のページを作り、生徒自ら仮説を立てたり、計画を立てたりする、そういった取組もされているようごさいます。

最後に、啓林館ですが、啓林館につきましては、探求の過程を導入から、それからまとめ、学習の終わりにといった一連の活動で構成をてごさいます。教科書の初めに随時して、生徒に意識させようとしている意図もごさいます。それから、この教科書の特徴ということでごさいますが、教科書の各所にQRコードをつけておいて、子どもたちの学習を支援しよう、そういった意識も受け取られる教科書でございました。

次に、調査委員会で意見が出たところ、あるいは議論が想定されるようなところについて御紹介してまいりたいと思います。

1つ目は、他の教科もそうごさいましたが、今回、ウェブサイトを活用した学習コンテンツやQRコードからのアクセス等々、各者、工夫が見られております。しかしながら、この内容については、外部コンテンツの紹介が多いなという印象を受けておりまして、少し物足りなさを感じているところごさいます。

また、他教科とのリンクというようなところ取り上げた出版社もごさいましたけれども、内容は同じ会社で出版されているほかの教科の教科書の関連ページというような形になっていまして、その資料をこの理科の学習にどのように使うかというようなところが、まだまだ教員に委ねられている部分ごさいますので、その辺も、今後、開発の余地があるのかなというふうに思てごさいます。

理科におきましては、ブラックボックスになる部分、それから観察・実験がなかなかできない部分に、こういったウェブサイトを使ったり、コンテンツを使ったりという教材の活用が非常に期待されておりまして、今後もいろいろと開発が進んでいくのかなというふうに思ております。

新宿区におきましても、生徒個人がタブレットを持つ時代がすぐやってくると聞いておりますので、こういったところで子どもたちが家庭での学習に、そういったコンテンツが使える

るような、そんな日がくるのかなというふうに思っで見させていただきました。今回、このQRコードについては、どの出版社も一長一短があつて、なかなか決定的なものまでには至ってございません。

そういうことで、5つの教科書を見させていただきまして、2つの教科用図書については、調査委員会として、総合的な評価としてA評価をつけさせていただきました。1つが東京書籍、1つが大日本図書でございます。

それから、学校図書と、それから教育出版と啓林館については、B評価という評価をつけさせていただきました。

C評価はございませんでした。

最後に、それでは新宿区の子どもたちにとっては、どういった教科書が適しているのかというところでございますが、1つはやはり実験・観察をしっかりやっていける教科書といひましようか、どの教科書も3年間で80前後の観察・実験を準備しているわけですから、これらを丁寧にやっていくことが、子どもたちの学力につながっていくのかなというふうに思っでございます。

それから、もう一つは、生徒の自学自習に有効な教科書であるということ。教科書には、様々な機能が求められていることは存じ上げておりますが、生徒にとって理解しやすい教科書というのが、例えば家庭学習や自由研究でも有効になってくるのかなと思っでございます。

A評価が2者ございましたが、2者に幾つか違いがございますので、そこだけ確認をさせていただいて、説明を終了させていただきたいと思ひます。

東京書籍は3年生、14ページをお開きください。それから、大日本図書ですと、やはり3年生の170ページでございます。

どちらも化学変化とイオンの単元に入ってすぐの最初の実験に、当てられることが多いかなというふうに思っしております。水溶液の内容に入ったところですね。電流が流れる水溶液の実験をしようというところ。子どもたちがいろいろな水溶液に電流を流してみ、化学的な変化があるのかなとか、気体が発生してくるのかな、色が変わるのかななんていうような実験をする、非常に興味深い単元、実験のところでございます。

この扱ひですが、大日本では170ページを見ていただくと、結果の例ということで掲載されています。精製水から塩化銅水溶液まで、電流が流れたか、流れなかったかなど、全て御覧のとおりに掲載してあります。子どもたちは実際は全てを実験できるわけではないので、こういった実験結果の例などを示して、子どもたちの学びをサポートしています。

東京書籍は少しアプローチの仕方が違いまして、3年生の14ページはレポートの書き方というところですが、結果のところ、①食塩水、②砂糖水ということで、その先は子どもたちがいろいろと探求するような形になっているんですね。この点が、授業をする側にとってみても、どちらが有効なのかというところが、大日本と東京書籍の分かれるところではないかなと思っています。

先ほど、結果からまとめのところ投げかけであるという説明をさせていただきましたのが、こういった点でございます。本区の理科の教員はまだまだ若手が多い状況もございます。理科の場合、自分の専門性のあるところについては非常に強いんですけども、自分の専門でない分野ですと、中には苦手意識を持つ先生もいらっしゃるようです。教科書としてどういった材料を教員に与えていくか。それから、それをどういうふうに授業で使っていくか、さらには子どもたちが自宅で勉強した後で振り返りをしたときに、どういうふうにこの教科書を使っていくかというときに、私ども調査委員会の中では、大日本のような、結果の例が示されているほうが、行く行くは子どもたちの学び、あるいは先生方の授業改善には有効なのではないかと、そういった意見もございました。

私からは以上でございます。

○教育長 ありがとうございます。

御意見、御質問等があればお願いいたします。

○羽原委員 ありがとうございます。

いわゆる教科書による勉強という以前に、新宿区の子どもたち、小・中学生は理科の点数が平均的に低いという結果が出ていますよね。つまり、この大都市に住んでいて、人工的なものに囲まれている環境だと、まず自然との触れ合いがない。僕は九州に長らくいて、いろいろ見てきた。博多とか、そういった場所は別として、大分あたりの方に行くと、自然との触れ合いがあるし、自然に対する憧れとか魅力とか、そういうものを肌で感じる。学問や勉強ではなくて、そういうものとの触れ合いがある。だけれども、都会の子にはその点での機会がない。つまり、理科という教科への勉強的なアプローチ以前に、この自然に対する、あるいは生き物などに対する憧れとか魅力とか、そういう観点での関心の広げ方、引き出し方、こういったものがないまま、すぐに教科書から入っていくような授業だと、いつまでたってもレベルアップしないんじゃないかと思うんですね。この教科書の導入自体が、もう少し生活密着型というか、身近のところから自然に触れていく、理科的な世界に入っていくというものであるべきではないかと。図書館や博物館が充実していても、自然自体が充実していな

いわけだから、その点を教育上どう刺激していくか。これは先生の課題でもあるし、教科書についても、僕はそこの部分を強調していくような方向性がやはり必要なのではないかと考えています。

○教育長 よろしいでしょうか。

ほかに御質問等ございますでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長 では、私から。大日本図書の教科書について、「これまで実施が困難だった実験について、身近で入手しやすい材料を用いて」云々という記述がありますけれども、具体的にどこのことを言っているのか、教えていただけますでしょうか。

○理科調査委員会委員長 例えば、3年生の204ページなどを開いていただきますと、ここはイオンの学習ですけれども、酸性の物質やアルカリ性の物質について、電流を流すとどのように移動していくのかという実験です。現場では、古くは寒天ゼリーなどを作ったりして、イオン自体は目に見えないんですけれども、色が変化することを利用して、そのイオンがプラスの方に動いていくのか、マイナスの方に動いていくのかを学習する手法を、いろいろと開発してきた歴史がございます。

この大日本の場合は、pH試験紙を使っているわけですが、こうして実際に目に見えるように、イオンの移動について表現されているという一例として、ここに記載させていただきました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかに御意見、御質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長 ないようであれば、次に道徳について、評価を決定する上での主な議論等について御説明をお願いいたします。

○道徳科調査委員会委員長 特別の教科 道徳の調査委員長を担当いたしました、四谷中学校校長の東孝夫でございます。よろしくお願いいたします。

今回の学習指導要領の改訂により示されましたのは、生徒の発達段階をより踏まえた内容としていくことや、問題解決的な学習を取り入れていくことなど、発達段階に応じて答えが1つでない道徳的な価値を一人ひとりが自分の課題として捉え、向き合う、考える道徳、議論する道徳への転換を図ることが重要であるということです。

目標といたしましては、ひとくくりに言いますと、道徳性を養うことが大きな目標であります。自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、そして人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるということになります。

特性といたしましては、4つの視点に分けられます。主として自分自身に関する事。主として人との関わりに関する事。主として集団や社会との関わりに関する事。主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事で、22項目にまとめられています。

内容といたしましては、教師と生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題であり、学校の教育活動全体の中で、様々な場面や機会を捉えて、多様な方法によって進められる学習を通して、生徒自らが調和的な道徳性を養うことが求められています。

さて、本調査委員会では、合計7者の教科用図書について調査をいたしました。

A評価から順にお伝えいたします。

まずは教育出版です。サイズの的には、B5判、ページも622ページということで、生徒にとってちょうどいいサイズかと思われます。

導入部分においては、全学年、学び方の説明があり、話し合いの方向性や活動が有意義になるよう工夫されています。

ほとんどの教科用図書はそうなのですが、ウェブにアクセスして追加資料を入手できるようになっています。教育出版にもリンクの記載がありまして、学習に役立つ情報を得ることができます。また、学期ごとの学びの振り返りが記録できるように、巻末にそういったページもごさいます。これは、評価にもつなげられるものと見ています。また、教材はバランスのよい配分がなされています。いじめについては各学年とも均等に3つ程度です。また、生徒の心や印象に残る教材、心の葛藤を取り上げるような教材が、どのくらい入っているだろうかということも検討いたしました。教育出版については、概ね、各学年とも4つ程度あって、ちょうどよいと感じました。

以上により、総合評価はAをつけさせていただきました。

続きまして、学研教育みらいです。A4判で582ページですが、A4判だと少々大きいかなという感じはいたします。各教材の「深めよう」とか、「クローズアップ」等で、生徒個々に自分のこととして深く考えさせたり、話し合いの活動で活用できる工夫がよくなされています。

また、この社にも同じようにQRコードがありまして、写真等をいろいろと見たりすることができるといことです。

先ほども申しました、心に残る教材も多くて、分かりやすいものが入っております。興味を持って読めるものが多く、また考え、議論しやすい内容も多いのではないかといいことで、総合評価Aをつけさせていただきました。

続いて、B評価であったものについて御説明いたします。

日本教科書です。B5判、582ページということで、これも使いやすいサイズかなと思います。また、巻頭に、学習の内容や進め方についての説明があります。何について勉強するのかなど、この教科書の使い方がよく分かるようになっています。

また、教材の最後に、「考え、話し合ってみよう」ということで、発問の例がございます。この会社も、心に残る教材が非常に多くありまして、深い学びにつなげられるという判断をいたしました。

以上により、総合評価Bをつけさせていただきました。

続きまして、東京書籍です。A5判で640ページということで、少々大きく感じました。話し合いの手引や、道徳の時間についての説明がございます。教科書に書き込めるところが多くありまして、記録に残すこともできますし、話し合い活動にも活用できると思います。

また、教材の最後に、考えよう、ということ、ここでも発問の例があります。裏表紙に同じようにQRコードがございまして、やはりインターネット上から学習に関する資料を入手することができます。

また、イラストや写真がすっきりしていて、生徒にとって非常に見やすいのではないかといいました。巻末に心情円がございまして、心の動きを図面で見ることができるということ、よく授業の中で使われていますけれども、作成しなくても利用できるというものです。

いじめについてなど心に残る教材が、これもバランスよく配置されています。

続きまして、光村図書です。B5判で607ページということで、これもちょうどいいサイズかなといいました。内容がシーズンごとに分かれていて、学校現場と照らし合わせながら、学習の見通しがつけやすいかなという印象です。また、補助質問的な「深めたいむ」というものがございまして。生徒の心により迫る機会が持てるこの補助質問は、有効であると考えられます。

また、こちらにも裏表紙にQRコードがございまして、関連する資料を入手することができます。こちらにもイラストが見やすく、写真等も配置が優れていると思われます。

光村図書は、ややいじめの情報が少ないかなという印象がございました。極端に少ないということではありませんが、そういうふうに感じました。

以上により、総合評価Bをつけさせていただきました。

続きまして、日本文教出版です。

B5判、720ページということで、量がやや多めかなと思います。厚みがあるということになります。こちらには「道徳ノート」があり、精度が高く、授業で使いやすいもので、授業者が発問を自由に記入できるというものです。また、印象に残った教材の確認もできますし、グラフで印象の度合いを表すことができます。これも評価につなげられるものと思います。

また、「プラットフォーム」というものがございまして、他の教科の学習活動に関連付けるという面から、教科横断的にといいましょうか、カリキュラムマネジメントにも、もしかしたら有効に使えるのではないかと思います。こちらにもQRコードがございまして、学びを深められるようになっていきます。

この会社はいじめに関する教材も多いですし、心に残る教材も多いです。

最後、廣済堂あかつきです。

A B判、678ページになります。これはちょっと大きいかなという印象がございまして。「道徳ノート」や評価一覧表などが巻末にありまして、実用的だと思われまして、これも評価につながっていくのではないかなと思います。

目次ごとにQRコードがございまして、いろいろな資料を参考にできるようになっています。また、その中で、手紙などはリアル感がありまして、直筆のような書き方で迫るものがございます。この廣済堂あかつきも、心に残る教材が非常に多く入っております。

以上のことで、総合評価Bをつけさせていただきました。

最後に、調査委員会の中では、いろいろと評価をしていく中で、全体的に非常に工夫された、バランスの良い教科用図書が多いという評価がございました。指導しやすく、深めやすい。あるいは発問についても工夫されているという面では、B評価であっても、指導していく中で使いやすさがだんだんと出てくるのではないかなという教科用図書も多いと感じられました。

また、他教科との関連の中で、教科横断的に取り組む中で、A評価に限りなく近い教材も多いなということも感じられました。ということをつけ加えさせていただきます。特別の教科 道徳についての報告を終わります。

○教育長 説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたらばお願いをいたします。

○今野委員 御説明の中で、度々、心に残る教材というものの分量のお話がありましたけれども、心に残る教材とはどういう教材のことなのでしょう。道徳ですので、いろいろな内容の教材がたくさんあって、バラエティーがあるわけですが、その中で心に残る教材というのは、どういう基準で、どういうものなのかを教えてくださいませんか。

○道徳科調査委員会委員長 御存じかもしれませんが、例えば「足袋の季節」という教材がございます。「足袋の季節」というのは、ある日、足袋を買いに行ったときに、その足袋を売ってくれたおばあさんがお釣りを間違えます。ところが、その間違えたお釣りの額というものが全然違う額なんですけれども、それを本人は葛藤して、返そうか、返すまいか迷いながら、ずっと自分の中で、ずっと人生の中で悔やんでいきます。しかし、最後にはやはり返さなければならないということで、最後に返そうという動きを取るのですが、もう既におばあさんは亡くなっていて、というような内容です。そうした心の葛藤を取り扱っていることが、生徒自身が自分のことのように捉えやすいような、そういった教材という意味で、心に残るという表現を使わせていただきました。

○教育長 よろしいでしょうか。

ほかに御質問等ございますでしょうか。

○羽原委員 道徳の教科書は、唯一、ページが減ったんですね。僕は、これは非常にいいと思っています。新型コロナで授業がないからではなくて、意見を交換するような、あるいは単一の結論を出す教科ではなく、みんなが「なるほど」と、自分の考え方を、受け止め方を広げるような授業なんだから、意見交換の場が非常に重要で、その意味で僕は、指導上のノルマ的な部分が減ったことは、いいことだと思います。

文章でたくさんのことを頭に入ればいいのではなくて、考えたことがかっちり心にとまるようなことが、道徳という教科の本来的なところだと思うので、その点は僕はよかったなと思っています。

それから、前回採択したときに、日文のこの道徳ノートが非常に好評だった。今度は廣済堂にも付いているようですけれども、これはあまり好評ではなかったんですか。

○道徳科調査委員会委員長 調査委員会の中では、ちょっと使いづらいという話もあったのですが、学校によっては使っているところもあるようです。

○羽原委員 割によかったかなと、採用のときには思いましたけれども、どうかなと思って、

ちょっと伺いました。

○教育長 ほかに御質問等はございますか。

○古笛委員 私も日文の道徳ノートのことになりました。前回の採択のときに、道徳ノートが評価をするときにいいんじゃないかということだったんですけども、ほかの教科書と比べると学びの記録みたいに、学研なども最後に少しそういう部分はついているんですけども、この日文の道徳ノートは、ちゃんと書こうと思うと、かなりの負担感、という表現はよくないかもしれないけれども、子どもたちが大変なのかなというところもあって、そういったところはどうかと思います。やはり、調査委員会の評価が、現行のものがA評価でなかったことの原因がどこにあるのかなということが一番気になっています。いかがでしょうか。

○道徳科調査委員会委員長 道徳ノートの活用については、確かに学校独自の部分がございます。ただ、前回、日文を評価したときには、本当に新鮮なものに感じたところがあったんですけども、ただ実用的なところでは、ちょっと厳しいのかなという現状もございます。

○教育長 ほかに御質問等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ありがとうございます。

続きまして、音楽（一般）について、お願いいたします。

○音楽科調査委員会委員長 音楽調査委員長を担当しました落合第二中学校長の島田一宣です。よろしくお願ひします。

今回の指導要領の改訂では、教科や学年の目標が、それぞれ資質・能力の3つの柱に沿って整理されました。それらを基に音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指すことが明確にされました。また、学習内容についても、3つの柱を重視して改善、充実が図られました。

このことで、現行の学習指導要領よりも、音楽の授業を通して身につけるべき資質・能力について、その目的と方法がより具体的に明記され、なぜ音楽を学ぶのかという、教科を学ぶ本質的な意義が明確にされました。

音楽科の目標について、学習指導要領の前文では、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指すことと示されています。

具体的な目標は3つあります。

1、曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。こちらが知識・技能になります。

2番目が、音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聞くことができるようにする。こちらが思考力・判断力・表現力等になります。

3番目が、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。こちらが学びに向かう力、人間性です。以上、3点が示されています。

これらの目標は、発達段階に応じて1学年と2学年で細分化され、1学年では基礎的な目標が示され、2・3学年ではそれをより深化させた目標として示されています。

知識に関する目標では、2・3学年では背景が加わってきます。表現領域に関する目標では、2・3学年では、曲にふさわしい、が加わり、鑑賞領域に関する目標では、自分なり、がなくなっていきます。

続いて、学習内容の改善・充実では、音楽科で育成する知識として、曲想と音楽の構造や背景との関わりなどを明示しました。また、B鑑賞において、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について考える事項を追加しました。

学習指導の改善・充実では、言語活動をA表現及びB鑑賞の指導において扱うよう改善されました。また、歌唱及び器楽の教材選択の観点として、生活や社会において音楽が果たしている役割が感じとれるものを追加しました。

次に、知的財産の保護と活用に関する配慮事項として、著作権の創造性を尊重する意識や態度を育成することや、こうした態度の育成が音楽文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮することなどが明記されました。

この目標の中にある音楽的な見方、考え方は、生徒が音や音楽を表現したり、鑑賞したりする際に、音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素、音色、リズム、速度、旋律などと、その働きの視点で捉えたこと、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連づけて考えることです。

これは音楽的な見方、考え方を働かせることにより、音楽科における深い学びの視点から授業改善の一層の工夫がなされることを期待するものであり、子どもたちの豊かな情操教育の一環を担うことが求められていると考えられます。

本調査委員会では、教科用図書として、音楽（一般）2者と音楽（器楽合奏）2者について調査を行いました。2者に共通していたことは、図版が鮮明で美しいこと、見開きで掲載するなど作品に応じた掲載方法を採用していること。また、QRコードが掲載され、様々な情報が収集できるようになっていることなどで、それぞれ工夫されていました。

では、音楽（一般）の結果をお伝えします。

A評価は、教育芸術社です。生徒に身につけさせたい資質・能力を分かりやすく記載しており、生徒が見通しをもって学習を進めることができる。音楽の出版社であることを生かした音楽を重視した掲載内容で、教材数も豊富である。学習内容の系統ページに、知識・技能、思考力・判断力・表現力等をどの曲で学ぶかが明確に掲載されており、指導する側、学ぶ側、双方とも分かりやすいということからA評価をつけました。

B評価は教育出版です。歌唱、器楽、創作、鑑賞に沿って、学年に適した内容の教材がバランスよく配置されているほか、話し合い活動を活性化させる工夫がある。楽譜の音列に対しての注釈や指示が的確に色分けされ、譜読みに苦手意識がある生徒にも分かりやすく表記されているということからB評価をつけました。

音楽科調査委員会としては、生徒がその場ですぐに歌唱できる教材が示してあり、発声練習として楽しく歌唱活動の導入ができる、また合唱コンクールなどで課題曲や自由曲として取り入れやすい、学年に合った合唱曲が掲載されているなど、生徒たちにとって使いやすいことや、教材数が豊富であることを評価し、教育芸術社を推薦します。

音楽（器楽合奏）の結果をお伝えします。

A評価は、教育芸術社です。和楽器の説明や図解が丁寧で生徒が理解しやすく、楽器に関しての内容や構成・分量なども適している。教材が幅広いジャンルから選択されており、リコーダーなどについては、2種類の楽器で同じ曲に取り組めるような工夫がされている。鑑賞の教材を、実際に自分で演奏し、鑑賞と器楽の両分野を関連づけてマスターできる。そして、週1時間の授業の中で、全ての分野を扱う際、このように連動していると理解が深まるということからA評価をつけました。

B評価は、教育出版です。個々の楽器の学習に加え、取り上げる楽器の固有性・共通性についても学習しやすい配列になっている。教師側の模範演奏とともに、教科書の図や写真を大いに活用できる。また、奏法を習得するための練習曲も充実しているということからB評価をつけました。

音楽科調査委員会としては、鑑賞教材と器楽の題材が関連づけられており、週1時間の授

業の中で全ての分野を扱う際に理解を深めることができる。また、写真が多く、構え方や基本的な奏法など、分かりやすい和太鼓の打ち方、ギターやキーボードのコード表、琴や三味線の弦の押さえ方などということの評価して、教育芸術社を推薦します。

以上で、音楽科調査委員会の報告を終わります。ありがとうございました。

○教育長 それでは、まず音楽（一般）から御意見、御質問があればお願いいたします。
いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 よろしければ、続きまして器楽合奏について、いかがでしょうか。

○山下委員 先ほど著作権についてお話が出たと思うんですけども、学校教育の中では比較的新しい事柄なのかなと思います。教芸では結構、具体的に書かれている感じですね。教出は控えめでしょうか。やはり音楽の授業で教えていくことになるのでしょうか。今も教えていらっしゃるのでしょうか。

○音楽科調査委員会委員長 小学校では、学習指導要領の改訂に伴いまして、新しい教科書では著作権のことについて取り上げていることを授業の中で説明しています。今後、中学生については、著作権とはどういうもので、どのように捉え、関わっていくのかなどについて、授業の中で必要に応じて触れていくことになると思います。

○山下委員 ありがとうございます。

もう一点、いいですか。音楽をつくるという単元が載っている部分があるんですけども、音楽をつくってみるというのは、実際に今、授業でされているのでしょうか。

○音楽科調査委員会委員長 本校、落合第二中学校では、実際に授業の中で、楽譜に自分たちで書いたものをピアノやアルトリコーダーを使って演奏している場面を見たことがあります。短い小節なのですが、ピアノを習っているお子さんであれば、少し曲らしいものになっていたり、という場面は認識しております。

○山下委員 ありがとうございます。

○教育長 よろしいでしょうか。

私も学校訪問に行ったときに、タブレットで、自分で作った曲にピアノやフルートといった楽器を割り当てて、打ち込んで、演奏させているシーンは見たことがあります。

ほかに何か御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 よろしければ、これで種目ごとの指導要領の中での目標、教科の特性等、調査委員

会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについての質疑を終了いたします。

続いて、教科用図書審議委員会の調査結果について、審議委員会委員から種目ごとに説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

それでは、数学について、教科用図書審議委員会では、どのような審議、検討が行われたのか御説明をお願いいたします。

○池田教科用図書審議委員会委員 審議委員の池田です。

審議検討内容の説明を行います。

審議委員長の説明にもございましたが、審議委員会では学校調査報告の結果と調査委員会報告を踏まえ、実際に教科書で意見欄に示された部分等を確認しながら、審議を行いました。学校調査報告の結果と調査委員会報告とは評価が異なる場合も教科によってはございますが、双方の意見を踏まえながら調査し、独立した評価を審議委員会として行いました。

それでは、数学についての審議、検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてですが、最もA評価が多かったのは東書で、10校中6校がA評価でございました。調査委員会の調査結果では、東書と学図が総合評価としてはAでございました。審議委員会としては、東書、そして学図ともにA評価といたしました。

その理由、意見等としては、東書は基本的なことが簡潔にまとめられており、様々な習熟の生徒に対応できること。字の大きさ、余白、写真、イラストのバランス構成等がよいことなどが挙げられました。

学図におきましては、質、量が豊富で配色がよく全体的なバランスがよいこと。また、イラスト、写真等が生徒の興味関心を引くものであることといった意見が上がりました。

また、審議委員会の中では、他者に関する意見として、例えば啓林館、発展的な問題も多く、技能の習得に広がりを感じられるなどがよい点として挙げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、問題量につきましては、教科書への記載量だけではなく、問題集等との併用が考えられ、逆に多様な生徒の習熟に合わせて使用ができるということから、東京書籍を選択させていただきました。

学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった東書を審議委員会としては推薦いたします。

数学は以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたら、お願いいたします。

○星野委員 気になったことが1か所だけあるんですけれども、円周率「 π 」についてです。

東書ですと、1年生の70ページに「 π は決まった1つの数字を表す文字であるから」という記載があります。一方、学図では1年生の213ページに「 π は文字式や方程式で学んだ文字とは違い」という記載があるんですよね。どちらが正しいのでしょうか。

○古笛委員 文字式や方程式の文字とは違うと。「 π は限りなく続く数である」とも書いているんですよね。

○山下委員 定数というものですよね。ですから、普通は素数の扱いではあるんです。

○数学科調査委員会委員長 微妙な御質問かとは思いますが、一応、学習指導要領の中では、用語、記号という扱いのところに載っています。ただ、実際、現場で教えるときには、3.14…と無限小数を表す記号なのだから、数字と文字の両方の性質を持っているんだよというふうな表現をしています。どこの場面に出てくるかというよりは、それを教員がどう料理し、指導していくかが大切なのかなと考えております。

○教育長 よろしいでしょうか。

○星野委員 はい、結構です。

○教育長 ほかに御質問等ございますでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御質問等なければ、採択にふさわしい教科用図書について、各委員の御意見を確認していきたいと思っております。古笛委員から、よろしいでしょうか。

○古笛委員 私は、数学に関しましては東書でよろしいかと思っております。調査委員会の意見も、学校調査も、審議委員会も全て一致していますし、見ていて勉強しやすそうに感じますので、東書でいいのではないかと思いました。

○教育長 ありがとうございます。では、星野委員、お願いします。

○星野委員 私は先ほどの疑問、 π に関する記述が間違っているということであれば、東書はやめようかなと思っていたんですけれども、どちらも正しいということでしたので、東書でよいと思っております。一か所、たしか2年生の箱ひげ図でしたでしょうか、あそこの入り口のところで、ちょっとこだわるところ、引っかかるころはあったんですけれども、問題の解説が丁寧なのが東書の特徴かなと思っております。全般的に評価の高い東書でよいかと判断いたしました。

○教育長 ありがとうございます。では、今野委員、お願いいたします。

○今野委員 私も、審議委員会の最終的な報告のとおり、東書がいいと思います。

個人的な印象ですけれども、東書について、良い点が多いなと思いました。

まず、0章でしたか、小学校の算数からの移行がスムーズになる可能性が高いなと思いましたし、全体に導入に工夫がされていて、子どもの興味をかき立てるようなところから始まるような印象を持ちました。例えば1年生の最初のところですが、九九の表があって、四角で囲んで斜め同士の積が一緒になりますよとか、いろいろな面白い見方で考えさせる。それから、章の後ろにいろいろなものが出ていましたけれども、中でも紙パックの回収した量でどのくらいのトイレットペーパーができるのかとか、行列の長さで待ち時間を考えましようとか、面白いものが多いなと思いました。

それから、同様に興味関心をかき立てるという意味で、「数学のまど」という小さなコラムのようなものがいろいろなところに出てくるんですけれども、例えば小町算。そういえば昔、どこかで見たなという、1から9までの数字を1回ずつ使って100になるような数式をつくるんですけれども、小野小町か何かの昔の絵と一緒に出てきていたり、統計から女子の生まれる確率をどう求めるかなど、表から見たりするものもありました。数学の自由研究という欄も、素数から暗号の話につながったり、先ほどの円周率の求め方にしても、昔の人はどんなふうに考えたかとか、そこから発展しやすいような、あるいはそういう気持ちを持たせるような工夫ができていて、よかったなと思いました。

それから、先ほど古笛委員からもありましたけれども、段階的に理解ができるような配列になっている感じがしました。そういうわけで、とてもいいんじゃないかと思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。それでは、山下委員、お願いいたします。

○山下委員 私は学図がいいなと思いました。なぜかといいますと、1つはデザインですが、どうしても東書のほうを見ると、たくさん色を使っているのはいいんですけれども、ちょっと色がうるさいというか、多すぎるかなと。いろいろと意味は持たせているようなんですけれども、その割には、例えば問7に青色と赤色があるんですけれども、小さくポツポツというような感じで、大切なところが見えていて少々分かりにくいかなと思いました。

あと、統計の分野のところを見ていたんですけれども、東書は扱っている内容が、ヒストグラムの1,500メートル走の記録についてということで、優勝したチームとそうでないチームで1,500メートルのタイムがどうだったかということと比較しているんです。この比較は

実はすごく難しく、選手を選ぶときは上位何人を選ぶかであるとか、考える要素が非常に多いものを素材として選んでいるように思いました。これを本当の意味で理解するのは、ちょっと難しいのではないかなと思いました。

その点、学図のほうは、色が章立てごとにピンク、青、ピンク、青という形で、すごくシンプルにまとまっていて、何か今風のデザインなのかなというふうに思っていました。

統計の素材も見てみたんですけども、大体1つのテーマをずっと最後まで通して使っていってみたいですね。こちらはルーラーキャッチ、定規を落として何センチのところをつかまえられるかというもの。これだと分かりやすいし、やろうと思ったら子どもたちでもすぐにできるのかなと思いついていました。

ただ、ここの素材に関して言えば、私は啓林館が一番好きでして、紙吹雪を作るのに、どれぐらいの大きさの紙吹雪を上から落とすときれいに見えるかという、非常に美しい素材なんです。面積をどれぐらいにすると、卒業式に使う花びらがちゃんときれい舞いますかというのを、統計的に分散と平均を求めながら考えていく。非常に面白い素材だなと思えました。啓林館はマニアックというか、数学が好きな人がつくっているんだなと思えました。

ですが、トータルで見ますと、私は学図がいいかなと思えました。

○教育長 ありがとうございます。では、羽原委員、お願いいたします。

○羽原委員 僕は学校現場、それから各委員会の意見のとおり、東書がいいと思っています。全体的に、自分で勉強してみても、できる子はできるなりに、できない子はできないなりに、内容に入っていくやすいという感じがあって、丹念にこの教科書に沿って勉強していくと、それなりについていけるんじゃないかなと思えました。この教科書ならば比較的、数学から拒絶状況になって、はみ出ていくということがなく、授業についていけるんじゃないかなという印象がありました。導入部の親しみやすさの面でも、僕は東書がよろしいと思います。学校の現場での使いやすさも加味すると、東書がいいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

私も調査委員会、審議会委員、それから学校評価、合わせて東書ということで、東書がよろしいんじゃないかなと思います。東京書籍の1年生の一番初めの「数学の世界へようこそ」というのは、なかなかいい文章だなと思っていて、つまり今までは整数としてしか出てこなかったものが、もっと広い、マイナスもある別の世界になってくるんですよという、導入の部分がなかなかいいなと思えました。また、そうかと思うと、円周率のところでは、アルキメデスが、96角形を基に計算したという物語もあって、興味関心という点でよろしいか

など思いました。

それでは、お諮りします。

数学については、東京書籍発行の教科用図書と、学校図書発行の教科用図書が優れているという御意見であったと思います。この2者を採択の対象として、教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○**教育長** それでは、数学については7月27日の教育委員会において改めて1種に絞り込みたいと思いますので、それまでに皆様の御意見をまとめておいていただければと思います。

それでは、ここで数学科調査委員長には御退席いただきます。ありがとうございました。

〔数学科調査委員会委員長退席〕

○**教育長** 次に、美術について、教科用図書審議委員会でどのような審議、検討が行われたのか御説明をお願いいたします。

○**池田教科用図書審議委員会委員** 審議委員の池田です。

美術についての審議検討内容の説明を行います。

学校調査で最もA評価が多かったのは光村で、10校中7校がA評価でした。調査委員会の調査結果では、光村が総合評価でAでした。審議委員会では、光村をA評価といたしました。

その理由、意見等として、発想から制作までの実例を詳細に示しており、生徒の学習の流れがイメージしやすいつくりとなっている。また、ほかのページと紙質を変えて構成されているページ等があり、またサイズ観等がコンパクトであることなどが意見としては上がりました。

他者に関する意見として、例えば日文の3分冊の部分や、生徒の作品数の多さ、開隆堂に関しては、区ゆかりの草間彌生さんが挙げられている点などが挙げられておりました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった光村を推薦いたします。

美術については以上でございます。

○**教育長** 美術の説明が終わりました。

御質問等あれば、お願いいたします。

いかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長 御質問等がなければ、今度は羽原委員から、よろしいでしょうか。

○羽原委員 結論から言いますと、光村がいいと思います。具体的に言いますと、1年生のところを見ていると、中学校の図画工作という割には、初歩的な基礎は受けているけれども、これが絵画、彫刻、デザイン、工芸というように、ジャンルがある程度固まってくる。その最初の導入的な1年生のところでは特に、与えられている作品が何となくざわざわとするものがあって、感性を刺激されるような、引き込まれるような印象がある。これが一番、光村が強い印象を得たという理由です。やはり創造性を刺激すること。鑑賞も大事だけれども、創造性をかき立てるといところが比較的いいんじゃないかなと思います。

開隆堂も、いずれアヤメかカキツバタかというぐらいの競合する状況ではあると思いますが、開隆堂はどちらかという美術を学ぶという感じで、そこが光村の感性を伸ばしていくという観点と比較すると、僕としては、美術は勉強的でなくていいんじゃないかなという感じを持っています。光村にも、美術って何だろうとか、美術を学ぶという部分はあるけれども、イメージのキャッチフレーズがある。開隆堂は、学びの地図とか、絵や彫刻で学ぶというように、どちらかという学ぶというところにウエイトがあるのかなと思いました。開隆堂も、冒頭から見ることの発見とか、心引かれる風景とか、写し取る形というような、そういうフレーズもあるわけだから、むしろそこから入って、引きつけておいて、学びの地図とか、そういう学ぶという方向性につなげていってもいいんじゃないかなと思いました。

それから、光村の1年生の見開きのページを見ると、風神雷神があり、三十三間堂の像があり、宗達の屏風絵があって、さらにまた酒井抱一の同じ題材があって、どういうつくり方なのかなという、造形していくその見せ方、この対比が非常に面白いという印象でした。

ゲルニカも載っているが、ゲルニカだけでなく、ゲルニカを見ている少年というこの捉え方が写真としての意味もあって、このあたりがいいと思いました。

開隆堂には樹花鳥獣図屏風絵が、やはり見開きで大きく載っていますが、風神雷神のほう一般的な興味を誘い出すと思うし、これだけ大きい見開きにするならば、何かもうちょっといい絵が出てくるんじゃないかなと、そんな感じがしました。

結論としては、光村です。

○教育長 ありがとうございます。では、山下委員、お願いします。

○山下委員 私は光村と日文で悩みました。何か位置付けがもともと違う教科書だなというふうに感じてまして、日文のほうはどちらかという完全にアート志向というか、教科書のデザインもすごくいいですし、1冊の本としては素晴らしいなと思いながら見ていました。

文字のアクセントにしても、読んでいてすごく面白い。ただ、これを用いて授業をするとすると、ちょっと話が変わってきて、いろいろな表現技法を体系立てて説明しているかどうか、あるいはこれがどう社会に役立っているのかというところからすると、光村のほうがり書かれているかなと思いました。

先ほどお話のあったゲルニカもそうですけれども、手前に男の子が写っているというのは、非常にインパクトがあるなと思いながら見ていました。そういった点から、私は光村でいいと思っています。

開隆堂は、どちらかという事典というか、説明文はすごくしっかりしていて、この作品がどういう背景でつくられたかということが非常に丁寧に書かれているので、これも子どもたちが読む分にはすごくいいんですけれども、ではこれで授業をするとすると、ちょっと私の中にイメージが湧かなかったので、光村にしたいと思います。

○**教育長** ありがとうございます。では、今野委員、お願いいたします。

○**今野委員** 審議委員会の最終的な判定として光村ということでしたので、それに基づいて教科書等、改めて見させていただきましたけれども、やはり光村がいいという結論でございます。

特に2・3年生を中心に見てみましたが、極めて多様な美しい、すばらしい教材が多くて、例えば古今の古典をじっくり鑑賞できるし、インスピレーションが湧くと思いますね。それから、現代の絵画、彫刻、絵巻、手塚治虫の漫画も入っていましたし、後半はデザインにとっても力が入っているなという感じで、映像なども出てきてまして、とても内容のある教科書ではないかと思いました。

以上です。

○**教育長** ありがとうございます。星野委員、お願いいたします。

○**星野委員** 私も光村がいいかと思いました。まず、見ていて絵がきれいだというのは1つありますし、3冊を読み比べていて、自分がやってみたいと思うような内容だったのは光村でした。ですので、光村がいいかなと思います。

日文も、確かにいいなという感じはあるんですけれども、何となく内容が専門的なところが多くて、これから入っていこうという気にはあまりならなかったかなという印象でした。

以上です。

○**教育長** ありがとうございます。古笛委員、お願いいたします。

○**古笛委員** 私も結論としては光村です。3種類、どの教科書を見ても、美術の教科書ってき

れいだなということだと思います。親御さんが見ても楽しめるような教科書なんじゃないかと思いました

光村の理由としては、やはり評価がみんな一致してAだったので、その点は大きいんですけども、内容を見ても、これは好みによるかもしれませんが、生徒さんの作品と日本や世界の美術作品の数のバランスなんですけれども、光村は生徒さんの作品よりも美術作品と言われるものが多いのは、それはそれでまたいいんじゃないのかなと思いました。お友達同士であれば見せ合う機会もありますけれども、日本や世界の有名な作品を見ようという点もとてもよかったです。

それから、手塚治虫さんとか、ちびまる子ちゃんとか、もう漫画というところのことなんだなと思いました。漫画についてはほかの教科書にも出ていたんですけども、とてもよかったです。

それから、面白いと思ったのは、地域の魅力を伝えるというところで、割とこのパッケージ、見たことあるなというのが、比較的身近に捉えられて面白いなと思いました。

以上です。

○**教育長** 私も、全体的なところで光村がいいと思いました。特に今、古笛委員がおっしゃいましたけれども、地域の魅力を伝えるというところで、帯広の六花亭のパッケージだなと思いましたけれども、70・71ページのところに、どういうふうにするかが書いてあるんですね。地域の魅力をデザインしてみよう、地域の内容を分けてデザインしてみようというところ、これは自分一人でも、もしかしたら夏休みの宿題にやってみよう、ということができるとのかなと思いました。

○**羽原委員** 日文について、僕は子どもたちの作品がよく出ていて、なかなかいい作品、チャージングなものも多く出ていて、この点は非常にいいと思って見ました。ぜひ、次回、頑張っている教科書をつくっていただきたいと思います。

○**教育長** ありがとうございます。

それでは、ほかに特になければ、協議内容を確認したいと思います。

美術については、本日審議した中で、皆様の総意として、光村図書発行の教科用図書を採択の対象とする教科用図書とすることでよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○**教育長** ありがとうございます。

では、恐れ入りますが、長時間にわたりましたので、4時5分まで休憩とさせていただきます。

たいと思います。

午後 3時52分休憩

午後 4時05分再開

○**教育長** では、次に、理科について教科用図書審議委員会では、どのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いします。

○**池田教科用図書審議委員会委員** 審議委員の池田です。

理科についての審議、検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは東書で、10校中6校がA評価でございました。調査委員会の調査結果といたしましては、東書と大日本が総合評価でAでした。審議委員会では、東書と大日本を、この2者をA評価といたしました。

その理由、意見等としては、東書は目的意識を持って主体的に観察・実験が行えるようになってきていること。また、理科に必要な予想、推論、分析、解釈、規則性の発見、まとめ、発表などが適切に配置されていることなどが挙げられました。

大日本については、教科、横断的な視点の題材整理がされていること。また、題材によっては、授業者の工夫次第で多様な授業展開ができることなどが挙げられました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として啓林館、探求シートの活用やQRコードの活用ができるという点が、よい点として挙げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、精選されたバランスのよい写真が多いこと。それにより、次にどんな実験や観察を行うか、さらに学習を深めるために、ポイントには波線が引かれ、科学的な思考へのアプローチがされている。こういったことから、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でもA評価であった東書を審議委員会として推薦いたします。

理科は以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。

御質問等がありましたら、お願いいたします。

○**星野委員** 東京書籍の3年生の一番最後に、星座早見盤がついているんですけども、当然、学校では星を見ることができないので、使うとしたら家で見ることになると思うんですけども、そもそも、学校では貸し出ししたりはしているんでしょうか。

○理科調査委員会委員長 学校では、星座早見盤を生徒用に複数枚用意しておりますので、状況によっては貸し出したり、あるいは移動教室等々で、東京を離れて星空のよく見えるところで星を探すときに使ってもらったりですとか、そのような対応をしております。

○星野委員 では、あえて教科書についていなくても、指導上、問題はないということですね。分かりました。

○教育長 ほかに御質問等ございますでしょうか。

では、私から1点。東京書籍の1年生の6ページに基礎操作とあって、いろいろな調べ方が書いてあるんですけども、水溶液の調べ方が載っていないのはなぜでしょうか。

○理科調査委員会委員長 水溶液の調べ方については、当然、基礎操作の1つではありますけれども、調べる内容が非常に多岐にわたっておりますので、水溶液の何について調べるのか、すなわち、pHを調べるのであればpH試験紙の使い方が基礎操作になりますし、水溶液を煮詰めて結晶を見るということになれば、ガスバーナーの使い方が基礎操作になってまいりますので、水溶液ということでは、単独では扱いづらかったものと思っております。

○教育長 分かりました。

ほかに御意見、御質問等ございますでしょうか。

よろしければ、順次、各委員のお考えをお受けしたいと思います。星野委員からお願いいたします。

○星野委員 私は、東京書籍がいいかなと思いました。1つには、やはり実験が主になってくる部分に関して、実験の説明や注意点がかなり丁寧に書いてあるので、危険回避という意味でいいかなと思いました。

主には大日本図書の教科書と比較しながら見ていったんですが、大差はなかったんですけども、やはり設問の数や、図解が適材適所にあるか否か、あとは一部、還元の部分で並び方が変わってくるのがあるんですけども、その区切りや順番が分かりやすかったこと。そういう点がありまして、東京書籍にいたしました。

以上です。

○教育長 次に、今野委員、お願いいたします。

○今野委員 審議委員会の最終結論どおり、私も東書がいいと思いました。

全体にそうなんですけれども、とても導入が巧みといいましょうか、上手に子どもの興味関心を引いて学習に自然に入れるような工夫というものが、いろいろなところにあるような感じがしました。例えば、2年生の教科書でいきなり見開きのすごい写真が出てきます。そ

の後、磁石関連の考察があって、そして少し間を空けて鉄の世界ということで、鉄に関する様々な提示があって、そして物質の1章に入っていく、ということで、導入が興味関心を引き出すような形で、自然な感じで学習に入っていけるんじゃないかなと思いました。

それから、14ページで、第1章の前に「つながる科学」ということで、物質が何からできているのかを、古代ギリシャの哲学者の考えをぽんと持ってきたりして、とてもいいなと思いました。

また、16ページで、第1章が始まってくるんですけども、ホットケーキの秘密、つまり、どうしてこんなにふっくらするんだろうということの問題提起があって、実験で調べてみようという展開になるわけですけども、いきなりホットケーキの膨らみの秘密はということが出てくるのが、興味を引き立てる上でとても面白くていいなと思いました。

逆に大日本では、炭酸ナトリウムの熱分解というタイトルのところでホットケーキが出てくるんですけども、その出し方の違いが、やはり問題発見から始まるということに徹底していて、各項目、そんな形になっている。問題発見、構想、課題、実験、分析という探求的な学習のやり方が至るところに、全体にありますので、興味を基にしながら発展させられる教科書なのではないかなと思いました。

それから、縦長のちょっと変わった判型でして、ほかの教科書と違うので扱いづらいんじゃないかなとも思ったんですけども、中を見てみますと、やはり理科の場合は図表や写真など、載せるべきものが多いと。そういう中で、この大きさに上手に収まっているので、子どもたちからすれば理解がしやすいということになるんだろうとも思いました。

最後に、表紙や裏表紙の写真ですけども、とても興味深い写真が幾つか載っていて、学習内容と関係しているんでしょうけれども、こんなところの配慮も良いかなという感じがいたしました。

ということで、私としては東京書籍でございます。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、山下委員、お願いいたします。

○山下委員 私は、東京書籍の一択でした。

理由は、例えば4ページに、科学はこんなに便利で…と科学への思いが最初に書かれているんですけども、5ページに、考えが異なったら、ちゃんと議論して先に進もうとあるんですね。こういうメッセージは、理解にはすごく大事なんじゃないかなと思います。誰が間違えているということではなく、いろいろと議論を進めるというのはすごく大事なことの

で、それを訴えとして書かれているというのは非常にいいかなと思いました。

また、非常に子ども目線で書かれていて、子どもがどうするのか、子どもが理科に対してどう取り組んでいくのかという視点でも統一されているので、すごくいいかなと思いました。

例えば、1年生の86ページですね、粉末の見分け方です。子どもたちがどうアプローチしていったらいいか、その正体を見つけるのかという、これは非常に探求心が刺激されて面白いかなと。

あと、随所に漫画があるんですけども、理科の好きな人から見ると非常に面白い漫画で、ああこういう見方もあるのかと思いつつ、くすつと笑えるようなものがあると、理科の好きな人、得意な人もこれを見て楽しめるんじゃないかなと思います。

判型についても、最初はなぜこんなに縦長なんだろうと思ったのですが、手に取って読んでいきますと、この判型がベストなんだなと思いました。なぜかというと、理科はフロー、つまり流れで追っていくことが多いので、目の動きとして、この判型だと非常にうまく流れを追えるなというふうに思いました。右側に図版があって、縦に並べたり、Z型に追わせたり、いろいろと工夫されているんですけども、非常に見やすかったです。これを見た後に横長の普通のものを見ると、逆に見づらく感じました。

また、キーワードですね、例えば最初に「レッツスタート」という言葉で始まったり、予測しよう、何々してみよう、と子どもの言葉で書かれているあたりがとてもいいと思いました。教えてあげる、ではなく、さあ一緒にやろうという立ち位置がすごく分かりました。

以上です。

○教育長 それでは、羽原委員、お願いします。

○羽原委員 僕自身はあまり理系の頭じゃないものですから、大いに比較して論議をするという域に達していないのですが、東書か大日本のどちらかがよいと思っています。

ただ、教科書のありようとしては、先ほど言ったように、身近な話題から入らないと、特に1年生ぐらいのときは、もうちょっと理科に引きつけられるような教科書にすべきだと、僕はそう思っています。つまり、身近な話題から入っていかないと、都会の子どもたちは人工的な物の中で生きているわけだから、自然に対する感覚が出てこない。そういう意味では、どの教科書についても、若干の不満はあるんです。

身近な話題というのは、例えば、地球温暖化がある、あるいは災害がある、減災が必要だ、あるいは火山、地震、台風、原子力の問題。まず、そういうものへアプローチする関心を持たなければ駄目で、いわゆる机の上での教科書にし過ぎていないかなと。だから、新宿区の理科教育は幾分追いつかないのではないかなという基本的な印象を持っています。

理科や数学は一つの結論にたどり着かなければならない。一方で、社会科学はいろいろな物の見方があって、それをどう考えるのか、そのバックグラウンドはどうかということ踏まえて自分の考え方を示すものです。理系と社会科学系の頭の使い方、あるいは論理の持っていく方は異なりますからね。だから、中学生ぐらいのときに興味、関心を持つことができているなら、理系の頭の方は勉強的でもいいが、そこにまだ至らない子どもたちには、もうちょっと広い意味での興味、深さよりも浅さや広さも必要なんじゃないかなと思っています。理科教育については、僕は基本的にそういうふうに思っているものですから、東書か大日本。この両者の教科書のいずれかということで、最終的に皆さんが推される教科書でよいと思います。

以上です。

○教育長 では、古笛委員、お願いします。

○古笛委員 私も迷ったんですけれども、大日本です。東書もちろんいいんですけれども、やっぱり先ほど調査委員会から御説明いただいたとおり、投げかけて、それを面白いと受け止めるパターンもあるかと思うんですけれども、とにかく新宿区の子どもたちは理科が苦手、理科の力を何とか上げていかなきゃいけないという部分がありますので、もしかしたら投げかけで終わるのではないかと。後から教科書を見たときに、分からないままということがあるんじゃないのかなと。ということで、高校受験なども踏まえて、もう一回、教科書を見たときに、答えまできちんと書いてくれている丁寧な教科書のほうが、理科が苦手な子どもが多い新宿区にはいいのかなと思って、大日本がいいのではないかと思います。

東書も大日本も調査委員会でAなんですけれども、大日本はオールAだったというのは、やっぱり、ちょっと心引かれているところではあります。最終的には、やはり丁寧なほうがいいかなと。答えまできっちり書いてくれているほうがいいかなと思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

私は、大日本です。1つは教科書の単元ごとに、その前にこれまで学習したことというのが1ページで書いてあるんですね。それはやっぱり、古笛委員がおっしゃったような、丁寧さに通じるころだと思います。また、調査委員会の中で、これまで実験が困難だったものが、簡単な材料で実験できるように工夫をしている。それから、結果から考えるということ。実験したらこういう結果になった、それはなぜかと考えるのが、科学の根本的な考え方なのかなと思いました。

また、設問も簡単なものから難しいものへと、段階を追って提示されていくことで、理科がなかなか浸透していかない新宿区にとってみれば、たまには教科書を変えるのがいいかなという感じはしています。

つまり、東書の教科書を使っていて全然上がってこない。やはり構成や教え方といったところで、もしかしたら問題があるかもしれないということで、私は大日本がいいと思っています。

他に御意見がなければ、羽原委員はどちらに。

○羽原委員 僕としては、大日本を推そうと思っていたところです。

古笛委員と同じく、すべてAという評価があって、片方はA2つという、その点からいってもいいし、取っつきがいいなという印象はありました。理科については先ほど申し上げたようなスタンスだけれども、どちらかと言えば大日本です。

○教育長 それでは、理科については、本日の審議から東京書籍発行の教科用図書と、大日本図書発行の教科用図書が優れているという御意見であったと思います。この2者を採択の対象として、教科用図書の候補とするということでよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 7月27日の教育委員会において改めて1種に絞り込みたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、理科調査委員長にはここで御退席をお願いいたします。

御苦労さまでした。

〔理科調査委員会委員長退席〕

○教育長 次に、道徳について、教科用図書審議委員会では、どのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○池田教科用図書審議委員会委員 審議委員の池田です。

道徳についての審議、検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは日文で、10校中7校がA評価でございました。調査委員会の調査結果は、教出と学研が総合評価でAでした。審議委員会としては、3者をA評価といたしました。

その理由、意見等として、まずは教出、題材が多過ぎず適正であると。教材、発問に工夫があることなどが挙げられました。

日文です。日文は、道徳ノートを使用した道徳性に関わる成長の様子の記録、そして教師、

生徒の振り返りを評価をしていく上でもとても重要であり、学校調査の結果等も鑑みてA評価とさせていただきます。

学研についてです。見通しを持てる紙面構成であること、そして情報量が精選されていることなどが挙げられました。

また、審議委員会では、他者に関する意見等として、同じような形で道徳ノートがつけられております。あかつきについての意見ですとか、また様々、道徳ノートのあるなしによって、どのような形になるかということで、話題とさせていただきます。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、道徳ノートの使用について、審議委員会でも、やはり学校現場、PTAの方からも有効であると意見を得ております。この道徳ノートについては、今回、わざと印字のほうをしていない部分等もございまして、そうした工夫もあることから、様々な生徒に対して対応ができる、そして教師の授業を行っていく上でも有効であるということから、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でB評価であった日文を、審議委員会としては推薦いたします。

道徳は以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

御質問等があればお願いいたします。

いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 それでは、私から1点。道徳というのは、調査委員会からお話があったけれども、様々な感動的な教材が提供されていて、その中で学んでいくというお話がありましたが、それは審議委員会でも変わらない立場でしょうか。

○坂元教科用図書審議委員会委員 審議委員会、坂元でございます。

審議委員会といたしましても、先ほど調査委員長からお話がありましたとおり、同じ考えでございます。

○教育長 お聞きしたいんですけども、日文の3年生の101ページです。

私、これはちょっといかなものかと思うんですよね。ほかの教科書は、性差についてはそれぞれ教材を入れて、その中で考えるとしているんだけど、日文だけいきなり、様々な生徒がいて…という、この図で勝負してしまっている。こういう問題に対して安直にこういったものをポンと出すのは、私としてはいかなものだろうかと思っています、というこ

とだけ、お伝えをしておきたいと思います。

ほかに何か御質問等ございますでしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** それでは、また順次、御意見をお伺いしたいと思います。今野委員から、よろしいでしょうか。

○**今野委員** 今、教育長が言われたことは大きな課題かなとは思いますが、他の部分にも関係してくるものなのか、全く別建てなのか。それは少し考える必要があるなと思います。しかしながら、そのお話の前までの段階で申しますと、審議委員会でいろいろと御議論いただきましたとおり、私も日文がいいのではないかと思います。学習を進めるヒントということで、道徳の学び方についての記述があったり、あるいはプラットフォームというところでいじめの関係や、アンガーマネジメントの関係、ネット配信のことなど、いろいろと必要な内容をコラム的に取り上げていて、冷静に理解できるような場となっているのもいいなと思いました。

それから、道徳ノートについては、以前からいいなと思いつつも、本当に学校現場で上手に活用されているのだろうか、子どもたちはしっかり書けているのだろうかという思いがありまして、いろいろな御意見があるようではありますが、審議会では最終的に学校現場からも有効だという評価をいただいているということですので、そう考えていいのかなと思いました。それぞれの特徴の観点から、日文がよいのではないかと思います。

○**教育長** ありがとうございます。では、山下委員、お願いします。

○**山下委員** 私は、日文と教出の2つを見比べてみて、特に日文のプラットフォームの部分については、感情的な部分と論理的な部分とに分かれていて、非常に教えやすいのではないかと感じていました。

教育出版は、すごくシンプルといいますか、イラストがさほど多くないです。すごくシンプルな構成だと思いつつも、じっくり自分で考えるという意味では、逆に意味のあるものかなと思います。イラストや写真に誘導されずに、自分と向き合えるという意味では、そちらがいいのかなと考えました。

非常に迷ったんですけども、やはり授業で使う、すなわち大勢の生徒さんを前に取り扱うという意味では、日文のほうが扱いやすいのではないかと感じていたので、日文にしたいと思います。

道徳ノートについてはお話も出ていて、自分にプラスワンのところなど、書き込むところ

は難しいなと思いつつも、教科書としては、いずれもすごく心に残る本当にお話ばかりで、すばらしいなと思いました。

以上です。

○教育長 では、羽原委員、お願いします。

○羽原委員 僕は、教出がいいと思っています。教出で一番いいと思ったのは、1年生の教科書でしたか、道徳の教科書の多くは文章であって、文章でどう判断するかということだけでも、歩きスマホの図表とか、変わりゆく地球とか、写真とかね。あるいはハゲワシの写真や、裁判员制度を考える仕組み、そのほか統計を使っている点など。つまり、道徳の狙いとしては、ほかの人たちがどういう判断、考え方を持っているかということに気づき、その気づきから自分の思いを広げるといった教科書の狙いがあるわけですから、そうすると文章題から読み取るだけの単純な方式よりも、やはりいろいろな写真を使ったり、統計を使ったりという部分があることが親切で、子どもたちもいろいろなパターンで論議ができる。これが非常にいいと思うんですね。

それから、日文については、学校現場の評価が一番高い。ただ、特に道徳の教科書は全体的に中身があまり変わってなくて、前回から差し替えたのは9%ぐらいですね。つまり、先生方としては使いやすいんだけど、この機会に教科書を変えて、文章題だけではない取組や教科の持ち方、これにチャレンジすることのほうが望ましいと。日文に対する慣れみたいなものが、こういう現場型の評価になって、その上でBが幾つもあるということは、つまり審議委員の方たちにも感じるものがあって、変えたほうがいいという考え方だったんじゃないかと思うんですね。

ですから、僕はやはりこれは教出のほうがいいと思う。切り替えるいいチャンスだという感じです。特にこの道徳という教科書のありようというのは、非常に難しい。つまり、短縮した時間でボリュームの多い授業をこなしていくのはなかなか難しく、下手をすれば押しつけの教科書になる。そうじゃなくて、100人なら100色の意見があるぐらいの感覚、これを狭めていって共有できるようにしていく。そういう論理の授業でもあるから、僕はやはりこの際、思い切って切り替えたほうがいいと感じています。ということで、教出です。

○教育長 ありがとうございます。では、古笛委員、お願いします。

○古笛委員 私は教出か学研で悩みました。これに日文も入れた3者の中で、やっぱり一番気になったのが道徳ノートです。前回のときには、道徳を評価するということで、初めてとなると、やはりこういうものがあつたほうがいいだろうということで、道徳ノートをプラスに

評価したんですけれども、実際使っているにもかかわらず、調査委員会で全部Bだったということは、何か現場のほうで引っかかりがあるんだろうと思います。私自身も改めて見てみましたけれども、この枠の中の答えを求められているというのが、ちょっと違うのかなと。もう少しいろいろな形で、授業も、先生にとっても、子どもたちにとっても、もう少し自由な形で、というのがいいのかなと思いました。そうすると、学研か教出かになります。どちらもすごくよかったですけれども、最終的には教出がいいかなという結論になりました。以上です。

○教育長 ありがとうございます。星野委員、お願いします。

○星野委員 皆さん、おっしゃっていることですがけれども、日文の評価が全部Bというのはなぜなのかなと、ずっとここに来るまで疑問に思っていたんですけれども、今日、お話を聞いて分かってきた感があります。

悩んだのは学研と教出です。重なっている分野もあるので、なかなか評価は難しいんですけれども、一つ気になったのはSNSの問題で、ほかのところがどちらかというとツイッターやインスタグラム、そういった感じの内容なんですけれども、学研だけがLINEを題材にしていました。やはり今、子どもたちにとってのSNSを考えると、一番身近なのはLINEだと思いますので、LINEを題材にするのは大事なことかなと思いました。

あとは、皆さんがおっしゃったとおりでありあまり変わらないのですが、僕は学研を推します。

○教育長 私は、結論としては教出を推したいと思っています。1つは、やはり道徳ノートが売りだったところ、現場での評価がBだったというのは、なかなか使いにくいところもあったという話ならば、売りが売りでなくなってきたのかなと思いました。

全体的に、いろいろと出ているエピソードは、各社、工夫をされているんですけれども、教育出版は「学びの道しるべ」のところで、一生懸命考えて3問、出しているんですよね。それを3問とも全部やらなくてもいいんでしょうけれども、自分にプラスワンよりもきつくないかなという感じはするんですよね。先生方の指導の仕方できろいろとできるかなと思ひまして、私としては教育出版がいいと思います。

他に御意見がなければ、取りまとめをしたいと思いますが、道徳については、教育出版発行の教科用図書と、日本文教出版発行の教科用図書、それから学研発行の教科用図書の3者を採択の対象とする教科用図書の候補とするということで、よろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 よろしければ、7月27日に改めて1種に絞り込みたいと思いますので、よろしくお

願います。

ではここで、道徳科調査委員長には御退席いただきます。ありがとうございました。

〔道徳科調査委員会委員長退席〕

○**教育長** 次に、音楽（一般）です。

音楽（一般）について、教科用図書審議委員会では、どのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○**池田教科用図書審議委員会委員** 審議委員の池田です。

音楽（一般）でございます。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは教芸で、10校中6校がA評価でございました。調査委員会の調査結果は、教芸が総合評価でAでございました。審議委員会では、教芸をA評価といたしました。

その理由、意見等としては、生徒がなじみ深い音楽から、直接触れる機会の少ない芸能まで幅広く扱われていること。歌唱教材の作曲者からのコメントなど、歌詞内容の理解という意味でも、有効な教科書であるという意見が上がりました。

教出の意見としては、QRコードや、「まなびリンク」等の活用がよい点として挙げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、教芸は表現の教材数が多く、その理解のための工夫がされているということで、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった教芸を推薦いたします。

音楽（一般）は、以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。

御意見、御質問があれば、お願いいたします。

いかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○**教育長** 御質問等がなければ、それぞれご意見を伺ってよろしいでしょうか。よろしければ、山下委員からお願いします。

○**山下委員** いろいろな視点で眺めてみましたが、私としては教芸を選択しました。

理由としては、先ほどの説明にもありましたが、非常に幅広い内容を扱ってくださっていて、例えば能楽ですとか、狂言もこの中で扱ってくださっています。日本の古典、またアジ

アのいろいろな音楽に触れられるのかなというふうに思っています。

2・3年生の48ページに、舞台ですね、敦盛ですとか、狂言が載っています。結構、専門的に書いてありまして、実際にどこまで細かく扱うかは別にしても、しっかり押さえられています。特に、歌い方ですとか、清水寛二さんが出ていますけれども、姿勢はどのようにして歌うのかというように、やったことのない人に対して、どういう心持ちで挑んでいるかというところまで書かれていて、非常にいいなと思いました。

また、教出でとてもいいなと思ったのは、1年生の32ページからです。こういう日本語を生かした抑揚、例えば言葉をどういうふうに入れていくのか、鳥の鳴き声や、いろいろなものを組み合わせていくというのは、非常に面白い取組だなと思いました。七五調をうまく使ってというのは、とても分かりやすくてよかったですと思います。

ですが、いろいろと考えまして、最終的には教芸を選択したいと思います。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。では、羽原委員、お願いします。

○羽原委員 僕も教芸がいいと思います。1つは、教育出版の84ページの楽典があります。それから、それに対して教芸のほうは、94ページに、1年生ですね、音楽の約束。これを見ても、非常に教芸のほうの方が分かりやすいような印象がありましたし、それから楽典の後に理論とか学習の部分が、つまり鑑賞の教材とか、そういうような楽典の後にある。これが、うまくリンクしてまとまりがいい、使いやすいという印象がありました。

ということで、それからこれはどちらにも通じるけれども、クラシック、ポピュラー、民族音楽、伝統音楽、マイメロディー的なもの、民謡、これが教芸のバランスがいいのかなという印象であります。ということで、教芸を選びます。

○教育長 ありがとうございます。

続きまして、古笛委員、お願いします。

○古笛委員 私も、教芸です。やっぱり評価委員も、審議委員も一致しているというところと、それから音楽得意じゃないんですけども、見るとやっぱりとても分かりやすかったです。特に分かりやすいなと思ったのが、音楽の約束と。1枚ページで、いろいろまとめてくれているページと、それから音楽史というのも、すごく分かりやすかったです。

教出のほうも、音楽史とか記載はもちろんあるんですけども、文字がいっぱい書かれていて、ぱっと見てちょっと分かりにくかったかなというところです。

あと、それからどうしても仕事柄、著作権に関する記載というのが、教芸のほうやはり

中学2・3年生ぐらいになったら、これぐらいちゃんと説明してあげていだろうというぐらい記載されていたので、教芸にしました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

星野委員、お願いします。

○星野委員 私も教芸を選びました。出てくる曲の内容が取っつきやすいというか、親しみやすい曲が多いかなと。僕というよりかは、今どきの子どもにとって、取っつきやすい曲が多いかなという感じと、あと絵もやっぱり今風の絵が多くて入り込みやすいかなと。さきほどの美術のときに言いましたけれども、芸術系とっても苦手なんですけれども、これだったらやってもいいかなと思うような感じがありましたので、教芸にいたしました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

今野委員、お願いします。

○今野委員 私も、この審議委員会の結論の教芸がよろしいと思います。両方、まあとてもいいと思うんですけども、印象的に非常に見やすく、読みやすく、使いやすいんじゃないかなという感じがしました。それから、内容的にも非常に幅広く、オペラの「アイダ」から、歌舞伎「勧進帳」、文楽、それぞれ非常に、それからほかの国の音楽もありましたけれども、とても分かりやすく説明ができていくんじゃないかなという印象を持ちました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

私も、学校現場、それから調査委員会、審議会等々で、教芸でよろしいかというふうに思います。

それでは、他に御意見等がなければお諮りをいたします。

音楽（一般）については、本日、審議した中で皆様の総意として、教育芸術社の発行している教科用図書を採択の対象とする教科用図書とするということで、よろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 ありがとうございます。

続きまして、音楽（器楽合奏）です。

よろしくお願いします。

○池田教科用図書審議委員会委員 審議委員の池田です。

音楽（器楽合奏）についての審議、検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは教芸で、10校中10校がA評価でございました。調査委員会の調査結果といたしましては、教芸が総合評価でAでございました。審議委員会では、教芸をA評価といたしました。

その理由、意見等として、日本も含む世界の楽器についての紹介がたけていること。また、初めての楽器でも簡単に演奏できる楽曲の掲載の工夫があることなどが上がりました。

他者の関する意見として、教出は、ギターやキーボードの写真、こういったものが実際に楽器を演奏する上で、非常に有効ではないかという意見がよい点として挙げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、糸中とじで譜面台に置きやすい工夫や、主体的に生徒が取り組めるように、課題に沿った手順やアドバイスが例示されていること。こういったことから、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった教芸を推薦いたします。

音楽（器楽合奏）については、以上でございます。

○教育長 御質問等、ございますでしょうか。

いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 特に御質問がなければ、羽原委員からお願いをしたいと思います。

○羽原委員 やはり教芸でいきたいと思います。たまたま琴のところを見ていたら、教芸のほうは楽器本体とか字、柱ですね、爪とか、奏法など、とってもよくまとまっていて、しかしその教出のほうは、たとえば言うところの琴の授業について、理論と、演技演奏の部分には整理不十分といったところが気になる。教芸のほうは、理論のほうでは、楽器の説明とか、そういうことになっているけれども、器楽のほうについては明らかに演奏するという、自分たちが琴を使うという、意識してページが作られている。そのあたり、やっぱり用向きに従って、理屈の部分と実技の部分をうまく分けているなという感じがしましたし、それからまた教芸の1年生の8、9ページ辺り、器楽と創作、この2つの点を表現として分かりやすく位置づけているということで、教芸がいいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、古笛委員、お願いいたします。

○古笛委員 私も、これは教芸です。審議委員会も、評価委員会も、学校現場もみんな一致し

ているというところと、やっぱり見やすいし、それから前は音楽（一般）と音楽（器楽）のほうを違うのにしたんですけれども、やっぱりよくよく考えると一緒のほうがいいのかなという気もちょっとしてきました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、星野委員、お願いします。

○星野委員 私も教芸がいいかなと思いました。この中で、自分でできそうなものはギターぐらいしかないんですけれども、ギターの解説もとっても分かりやすいですし、本当にやってみたいと思う気持ちになるものでした。正直、琴とか、この辺に載ってて、実際にやるかなという話は変わってくるんでしょうけれども、分かりやすいという点ではあります。

また、先ほど古笛委員もおっしゃいましたけれども、一般と器楽が違うというのも変かなと思いましたので、教芸でいいかなと思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、今野委員、お願いいたします。

○今野委員 審議委員会の結論のとおりで、教芸、私もいいと思います。それぞれの楽器の使い方、非常に分かりやすく、また見た目もきれいに編集されているんじゃないかと思います。それにしても、私たちの頃は、たしかリコーダーぐらいしか習った覚えがないんですけれども、ギターもきちっと教えてもらえるし、琴、三味線、太鼓、篠笛、どこまでできるか分かりませんが、打楽器まで含めてですね、こういう機会があるというのは素晴らしいことだと、改めて思ったところです。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

山下委員、お願いいたします。

○山下委員 私も教芸です。非常に分かりやすく、見やすい、何か各楽器ごとに非常に分かりやすく書かれているというのと、私もそれほど音楽はやらないんですが、多過ぎなくていいなと思いました。例えば琴なんかで、ではこんなにあります、最初から最後まで全部出されても、多分、自分では弾くことはあまりなくてですね、最初の「ああ、こんな感じなのね」が分かれば、多分、「よし琴、終わった」くらいの、こうあるのかなと。

すごく後ろの教育出版さんのほうは、随分、「レッツトライ」のコーナーで楽譜をずっと

書かれていて、本格的にやるには、確かにこちらのほうがいいのかなと思ったんですけども、実際、音楽でこれだけ全部やるのかしらというふうに思いました。

あと、教出さんは、ギターコードで、Fの別の押さえ方が載っているのは、非常に中学生に対して優しいかなと。大体、Fでつまずきますので、こうやって押さえてもいいですよと。

○教育長 制覇ができないと。

○山下委員 優しいなというふうに思いました。

あと、やっぱり開いて譜面に置けるというのも、非常に大事な要素だと思いましたので、楽譜の大きさは同じなのかな。

以上です。

○教育長 私も教芸ということで、全体の評価が教芸ということですので、糸とじも工夫の一つかもしれませんが、まあいろいろ考えていただいているということで、教芸とさせていただきますたいと思います。

他に御意見がなければ、協議内容を確認したいと思います。

音楽の器楽合奏については、本日審議した中で皆様の総意として、教育芸術社発行の教科用図書を、採択の対象とする教科用図書とすることよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 ありがとうございます。

以上をもちまして、本日の協議は終了とさせていただきますたいと思います。

事務局から何かありますでしょうか。

○教育調整課長 特にございません。

◎ 閉 会

○教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会といたします。

ありがとうございました。

午後 5時08分閉会